

図 3.2.12 両生類・爬虫類重要種確認地点

表 3.2.27 確認された重要種の生態情報及び確認状況 (1/6)

ニホンアマガエル (アマガエル科)		
指定状況	予測評価書：注目すべき種	写真未撮影
種の概要	海岸付近から市街地の植え込みや公園、草原から高山帯付近にまで生息している。繁殖期は3～9月と地域や環境により異なり長期間になることもある。水田、池沼、水たまり等の止水で繁殖する。	
分 布	北海道、本州、四国、九州、周辺島しょ	
確認状況	春季に公園及び保存緑地の樹林内で、鳴き声が計5例確認された。夏季に回復森林の樹林で、鳴き声が4例確認された。	

表 3.2.27 確認された重要種の生態情報及び確認状況 (2/6)

ヤマアカガエル (アカガエル科)		
指定状況	予測評価書：注目すべき種	 <p>令和6年10月2日撮影</p>
種の概要	平地から丘陵地の水田や湿地、山間部の比較的高地にまで生息している。繁殖期は2～4月で、水深の浅い水田や湿地、池沼等に産卵する。	
分 布	北海道、本州、四国、九州、佐渡	
確認状況	春季に調査範囲東側の保存緑地の池で、幼生が4個体確認された。夏季に調査範囲東側の保存緑地の樹林内で、幼体が1個体確認された。秋季に保存緑地の樹林内で、成体が2個体確認された。	

表 3.2.27 確認された重要種の生態情報及び確認状況 (3/6)

シュレーゲルアオガエル (アオガエル科)	
指定状況	県 RDB: 要注意種 予測評価書: 注目すべき種
種の概要	低地から高山部まで生息し、水田や池沼、湿地に多い。繁殖期は4~6月で、水田の畔や池沼、湿地の水際に浅い窪みを掘り、泡状の卵塊を産卵する。孵化幼生は雨天時等に卵塊から流れ出し、水中に入る。
分 布	本州、四国、九州、壱岐、五島列島
確認状況	春季に、調査範囲東部の保存緑地内の池、及び西部の保存緑地周辺湿地で鳴き声が7例確認された。

写真未撮影

表 3.2.27 確認された重要種の生態情報及び確認状況 (4/6)

ヒガシニホントカゲ (トカゲ科)	
指定状況	県 RDB: 要注意種 予測評価書: 注目すべき種
種の概要	低地から山地に広く生息する。昼行性で、日当たりのよい場所で日光浴をする姿をよく見かける。主に昆虫やクモを食べる。5~7月に石の下や土中に産卵し、メスは孵化まで卵の世話をする。
分 布	伊豆半島を除く近畿地方以东の本州、北海道、周辺島しょ
確認状況	春季に保存緑地の樹林内で、成体が1例確認された。 夏季に保存緑地、回復森林、公園等で成体及び幼体が8個体確認された。 秋季に回復森林やその周辺で、幼体及び成体が5個体確認された。



令和6年7月5日撮影

表 3.2.27 確認された重要種の生態情報及び確認状況 (5/6)

ヒバカリ (ナミヘビ科)		
指定状況	県 RDB: 準絶滅危惧種	写真未撮影
種の概要	低地から山地の森林や草地に生息し、特に水辺や湿地に多く棲息する。昼行性で泳ぎが上手い。餌はカエル類やその幼生、小魚が主で、ミミズも捕食する。産卵は7~8月で、4~10個の卵を産卵する。	
分 布	本州、四国、九州、周辺島しょ	
確認状況	夏季に保存緑地の樹林で幼体が1個体確認された。	

表 3.2.27 確認された重要種の生態情報及び確認状況 (6/6)

ニホンマムシ (クサリヘビ科)		
指定状況	県 RDB: 要注意種 予測評価書: 注目すべき種	写真未撮影
種の概要	低地から山地の森林から田畑まで、広く生息する。河川、池沼など水辺や湿潤な場所に多い。毒蛇として知られるが、性質はおとなしい。普段は夜行性だが、妊娠雌は昼間も活動する。胎生で、8~10月に5~6匹の子ヘビを産む。	
分 布	北海道、本州、四国、九州、周辺島しょ	
確認状況	春季に回復森林の藪で成体が1個体確認された。	

(4) 昆虫類

イ. 昆虫類相調査

調査範囲において確認された昆虫類は、表 3.2.28 及び表 3.2.29 に示すとおり合計 13 目 120 科 394 種であった。

確認種数では、コウチュウ目が全体の約半数を占める 40 科 187 種で最も多く、次いでカメムシ目の 28 科 71 種、チョウ目の 14 科 45 種、ハチ目の 29 種、バッタ目の 13 科 22 種等となっていた。一方、季節別にみると、春季 202 種、夏季 254 種、秋季 179 種であり、夏季が最も多く全体の約 6 割を占めていた。

調査範囲とその周辺は、三浦半島南部に位置し、黒潮の影響を受けて比較的温暖な地域である。周辺植生は常緑広葉樹林が主体であるが、調査範囲内にはそれらに加えて落葉広葉樹林や草地、裸地、池と湿地、人家等が存在する。そのため、ムラサキツバメやムラサキシジミ等の常緑広葉樹林に生息する種のほかに、サトキマダラヒカゲやノコギリクワガタ、タマムシ等の落葉広葉樹林に生息する種、ショウリョウバッタやトノサマバッタ、ヒガシキリギリス、ナガメ等の草地に生息する種、アオモンイトトンボやシオカラトンボ、アメンボ、ヘイケボタル等の水辺に生息する種等が確認され、昆虫類相は比較的多様であった。また秋季には、本来は南西諸島に分布するが、台風あるいは低気圧の影響を受けて飛来したと考えられる迷蝶のリウキュウムラサキも確認されている。調査範囲の昆虫類相は、関東平野南部沿岸域の人為的影響を受けた環境でみられる一般的なものであるといえる。

トラップ調査では、ベイトトラップ法により捕獲された種は、春季、夏季、秋季ともオサムシ科、アリ科が多かった。一方ライトトラップ法では、春季はチョウ目のガ類やコウチュウ目のコメツキムシ類、夏季はチョウ目のガ類、秋季はチョウ目のガ類やコウチュウ目のゴミムシ類が比較的多く捕獲された。

表 3.2.28 昆虫類の現地調査結果

目名	科数	種数	目名	科数	種数
トンボ	4	11	アミメカゲロウ	1	1
ゴキブリ	2	4	シリアゲムシ	1	1
カマキリ	1	3	チョウ	14	45
ハサミムシ	1	2	ハエ	8	16
バッタ	13	22	コウチュウ	40	187
ナナフシ	1	2	ハチ	6	29
カメムシ	28	71			
合計 13 目 120 科 394 種					

表 3.2.29 昆虫類確認種 (1/8)

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				春季	夏季	秋季
1	トンボ	イトトンボ	アジアイトトンボ			○
2			アオモンイトトンボ		○	
3		カワトンボ	ハグロトンボ		○	
4		ヤンマ	ギンヤンマ		○	
5			コシボソヤンマ		○	
6		トンボ	ショウジョウトンボ		○	
7			シオカラトンボ	○	○	○
8			オオシオカラトンボ	○	○	○
9			ウスバキトンボ		○	○
10			ナツアカネ			○
11			アキアカネ			○
12	ゴキブリ	チャバネゴキブリ	モリチャバネゴキブリ	○	○	○
13			ウスヒラタゴキブリ本土亜種		○	○
14			ヒメクロゴキブリ		○	○
15		マダラゴキブリ	サツマゴキブリ		○	
16	カマキリ	カマキリ	ハラビロカマキリ		○	○
17			コカマキリ		○	○
18			オオカマキリ		○	○
19	ハサミムシ	マルムネハサミムシ	ヒゲジロハサミムシ		○	○
20			ハマベハサミムシ		○	○
21	バッタ	カマドウマ	マダラカマドウマ		○	○
22		ツユムシ	セスジツユムシ			○
23			ヒメクダマキモドキ			○
24		キリギリス	ホシササキリ		○	○
25			ヒメギス	○	○	
26			クビキリギス		○	
27			ヒガシキリギリス		○	
28		ケラ	ケラ		○	
29		マツムシ	アオマツムシ		○	○
30		コオロギ	エンマコオロギ		○	○
31			ツツレサセコオロギ			○
32		カネタタキ	カネタタキ		○	○
33		ヒバリモドキ	ウスグモズ		○	○
34			マダラスズ		○	○
35			シバズ		○	○
36		バッタ	ショウリョウバッタ	○	○	○
37			ヒナバッタ		○	
38	トノサマバッタ			○	○	
39	イナゴ	ツチイナゴ	○	○		
40	オンブバッタ	オンブバッタ		○	○	
41	ヒシバッタ	ハラヒシバッタ		○	○	
42	ノミバッタ	ノミバッタ	○	○		
43	ナナフシ	ナナフシ	トゲナナフシ	○		
44			ナナフシモドキ	○	○	
45	カメムシ	ヒシウンカ	ヤナギカフウンカ		○	
46		ウンカ	ヒメトビウンカ		○	○
47			セジロウンカ		○	○
48			コブウンカ		○	
49		アオバハゴロモ	アオバハゴロモ	○	○	○
50	ハゴロモ	ベッコウハゴロモ		○	○	

表 3.2.29 昆虫類確認種 (2/8)

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				春季	夏季	秋季	
51	カメムシ	グンバイウンカ	ヒラタグンバイウンカ		○	○	
52		セミ	クマゼミ		○		
53			アブラゼミ		○		
54			ミンミンゼミ		○		
55			ツクツクボウシ				○
56			ニイニイゼミ			○	
57			ヒグラシ			○	
58		アワフキムシ	シロオビアワフキ		○		
59			ハマベアワフキ			○	○
60		コガシラアワフキムシ	コガシラアワフキ		○		
61	ヨコバイ	ツマグロオオヨコバイ			○		
62		オオヨコバイ		○	○	○	
63		サジヨコバイ			○		
64		ヒトツメヒメヨコバイ			○		
65		コミミズク			○		
66		ツマグロヨコバイ			○	○	
67		クロキヨコバイ		○			
68		サシガメ	アカサシガメ		○	○	○
69	グンバイムシ	アワダチソウグンバイ		○	○	○	
70		ナシグンバイ			○	○	
71		ツツジグンバイ		○	○		
72	カスミカメムシ	イネホソミドリカスミカメ			○	○	
73	マキバサシガメ	ハネナガマキバサシガメ				○	
74	オオホシカメムシ	オオホシカメムシ		○	○	○	
75		ヒメホシカメムシ		○	○	○	
76	ホシカメムシ	クロホシカメムシ				○	
77	ホソヘリカメムシ	ヒメクモヘリカメムシ				○	
78		ホソヘリカメムシ			○		
79	ヘリカメムシ	ホオズキカメムシ		○	○	○	
80		ホソハリカメムシ		○	○	○	
81		ヒメトゲヘリカメムシ					○
82		ホシハラビロヘリカメムシ		○	○	○	
83		オオツマキヘリカメムシ		○			
84		ツマキヘリカメムシ		○	○	○	
85		キバラヘリカメムシ			○	○	
86		ヒメヘリカメムシ	スカシヒメヘリカメムシ		○		○
87	ナガカメムシ	コバネナガカメムシ		○			
88		ヒメオオメナガカメムシ		○	○	○	
89		オオメナガカメムシ		○	○	○	
90		ヨツボシヒョウタンナガカメムシ		○		○	
91		オオモンシロナガカメムシ		○	○	○	
92		チャイロナガカメムシ			○		
93		ヒゲナガカメムシ		○	○	○	
94		コバネヒョウタンナガカメムシ		○			
95	メダカナガカメムシ	メダカナガカメムシ		○	○	○	
96	ツノカメムシ	エサキモンキツノカメムシ		○	○		
97	ツチカメムシ	ミツボシツチカメムシ				○	
98		ツチカメムシ			○		
99	カメムシ	ウズラカメムシ			○	○	
100		ウシカメムシ		○	○		

表 3.2.29 昆虫類確認種 (3/8)

No.	目名	科名	種名	調査時期				
				春季	夏季	秋季		
101	カメムシ	カメムシ	キマダラカメムシ		○	○		
102			ナガメ	○				
103			ムラサキシラホシカメムシ			○		
104			シラホシカメムシ		○	○		
105			ツヤアオカメムシ		○	○		
106			エビイロカメムシ	○	○			
107			クサギカメムシ	○	○	○		
108			チャバネアオカメムシ	○	○	○		
109			マルカメムシ	マルカメムシ	○	○	○	
110			キンカメムシ	アカスジキンカメムシ		○	○	
111			アメンボ	アメンボ	アメンボ		○	
112					ヒメアメンボ		○	
113					シマアメンボ			○
114			アブラムシ	クリオオアブラムシ	○	○		
115			ワタフキカイガラムシ	オオワラジカイガラムシ		○		
116	アミメカゲロウ	クサカゲロウ	アミメクサカゲロウ			○		
117	シリアゲムシ	シリアゲムシ	ヤマトシリアゲ	○	○	○		
118	チョウ	マダラガ	リンゴハマキクロバ	○				
119			ホタルガ		○	○		
120		セセリチョウ	イチモンジセセリ		○	○		
121		シジミチョウ		ムラサキツバメ		○	○	
122				ムラサキシジミ		○	○	
123				ルリシジミ	○	○		
124				ウラギンシジミ	○	○	○	
125				ベニシジミ	○	○	○	
126				ミドリシジミ		○		
127				ヤマトシジミ本土亜種	○	○	○	
128		タテハチョウ		アカボシゴマダラ		○		
129				リュウキュウムラサキ			○	
130				ヒカゲチョウ		○	○	
131				ヒメジャノメ		○		
132				サトキマダラヒカゲ		○	○	
133	コムスジ本州以南亜種				○			
134	キタテハ			○	○	○		
135	ヒメアカタテハ				○	○		
136	ヒメウラナミジャノメ		○	○				
137	アゲハチョウ		アオスジアゲハ		○	○		
138			カラスアゲハ本土亜種		○			
139			モンキアゲハ		○	○		
140			キアゲハ		○			
141			ナガサキアゲハ		○			
142			クロアゲハ本土亜種		○			
143			アゲハ	○	○	○		
144	シロチョウ		キタキチョウ	○	○	○		
145			モンシロチョウ	○	○			
146	ハマキガ	チャハマキ			○			
147	ツトガ		アカウスグロノメイガ			○		
148			モモノゴマダラノメイガ			○		
149			モンキクロノメイガ	○				
150			キムジノメイガ		○			

表 3.2.29 昆虫類確認種 (4/8)

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				春季	夏季	秋季	
151	チョウ	メイガ	アカマダラメイガ	○			
152		シャクガ		ナカウスエダシャク			○
153				ヨツモンマエジロアオシャク			○
154				オオハガタナミシャク			○
155				ウスベニスジヒメシャク			○
156		スズメガ	シモフリスズメ		○		
157		ヒトリガ	カノコガ	○	○		
158		ドクガ	チャドクガ		○		
159		ヤガ		ソトウスグロアツバ		○	
160				ウンモンクチバ			○
161				ヒメエグリバ			○
162				タケアツバ		○	
163		ハエ	ガガンボ	キリウジガガンボ	○		
164			カ	ヒトスジシマカ	○	○	○
165	ミズアブ		コウカアブ	○	○		
166	ムシヒキアブ			アオメアブ		○	
167				オオイシアブ		○	
168				ナミマガリケムシヒキ	○	○	
169				シオヤアブ		○	
170	ハナアブ			ホソヒラタアブ	○	○	
171				キゴシハナアブ			○
172				シマハナアブ	○		
173				ナミハナアブ	○		
174				アシプトハナアブ	○		
175				オオハナアブ	○		
176	クロバエ		キンバエ	○			
177	ニクバエ		ナミニクバエ	○			
178	ナガズヤセバエ		ホシアシナガヤセバエ		○		
179	コウチュウ	ホソクビゴミムシ	オオホソクビゴミムシ		○		
180				ミイデラゴミムシ	○	○	
181		オサムシ		アオグロヒラタゴミムシ	○		
182				チビヒメゴモクムシ	○		
183				アオオサムシ	○	○	○
184				マダラキノコゴミムシ			○
185				コヨツボシアトキリゴミムシ	○		○
186				セアカヒラタゴミムシ	○	○	○
187				クビボソゴミムシ		○	
188				ウスアカクロゴモクムシ			○
189				フタホシアトキリゴミムシ	○	○	
190				アオヘリアトキリゴミムシ	○		○
191				キイロアトキリゴミムシ	○		
192				イツホシマメゴモクムシ			○
193			ヒメツヤゴモクムシ			○	
194			ルイスオオゴミムシ		○		
195		ハンミョウ	トウキョウヒメハンミョウ		○		
196		ゲンゴロウ	ホソセスジゲンゴロウ		○		
197		エンママシ	ニセヒメナガエンママシ	○			
198		シデムシ		オオヒラタシデムシ	○	○	○
199			ヨツボシモンシデムシ		○	○	
200	ハネカクシ	ムネビロハネカクシ		○			

表 3.2.29 昆虫類確認種 (5/8)

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				春季	夏季	秋季
201	コウチュウ	ハネカクシ	クロズトガリハネカクシ		○	
202			キバネセミズハネカクシ		○	
203			クロマルズオオハネカクシ	○		
204			カギアンデオキノコムシ	○		
205			ハスモンヒメキノコハネカクシ	○		
206	マルハナノミ	キムネホソチビマルハナノミ	○			
207	センチコガネ	センチコガネ		○	○	
208	クワガタムシ	コクワガタ		○		
209		ノコギリクワガタ		○	○	
210	コガネムシ	ヤマトアオドウガネ		○	○	
211		セマダラコガネ		○		
212		コアオハナムグリ	○			
213		コクロコガネ	○			
214		ヒラタハナムグリ	○			
215		ハイイロビロウドコガネ	○			
216		マメコガネ		○		
217		シロテンハナムグリ		○	○	
218		カナブン		○		
219		タマムシ	クワナガタマムシ本土亜種	○	○	
220	タマムシ			○		
221	クズノチビタマムシ		○	○	○	
222	マメチビタマムシ				○	
223	サシゲチビタマムシ		○	○	○	
224	ソーンダーズチビタマムシ		○		○	
225	コメツクムシ	サビキコリ	○	○	○	
226		ヒメクロコメツキ	○			
227		アカハラクロコメツキ	○			
228		ナガナカグロヒメコメツキ		○		
229		アカアシハナコメツキ	○			
230		キアシミズギワコメツキ	○			
231		クロツヤハダコメツキ		○		
232		クロツヤクシコメツキ	○			
233		クシコメツキ	○	○		
234		ヒゲコメツキ	○			
235	マダラチビコメツキ		○	○		
236	ジョウカイボン	セボシジョウカイ	○			
237		ニセキベリコバネジョウカイ	○			
238	ホタル	ヘイケボタル		○		
239	ベニボタル	クロハナボタル			○	
240	カツオブシムシ	カマキリタマゴカツオブシムシ	○			
241	シバンムシ	ツツガタシバンムシ	○			
242	カッコウムシ	キオビナガカッコウムシ		○		
243	ジョウカイモドキ	ヒロオビジョウカイモドキ		○		
244		ツマキアオジョウカイモドキ	○			
245	コクヌスト	ハロルドヒメコクヌスト	○	○		
246	ツツキノコムシ	オオツツキノコムシ		○	○	
247		ミヤマツツキノコムシ		○	○	
248		キタツツキノコムシ		○	○	
249		ツヤツツキノコムシ		○	○	
250		ヒメツヤツツキノコムシ		○	○	

表 3.2.29 昆虫類確認種 (6/8)

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				春季	夏季	秋季	
251	コウチュウ	ツツキノコムシ	マダラホソツツキノコムシ		○	○	
252		テントウムシ	ムーアシロホシテントウ		○	○	
253			ヒメアカホシテントウ			○	○
254			ナナホシテントウ		○	○	○
255			トホシテントウ		○	○	
256			ナミテントウ		○	○	○
257			キイロテントウ		○	○	○
258			セスジヒメテントウ		○		
259			アトホシヒメテントウ		○		
260			ヨツボシテントウ		○	○	○
261			ヒメカメノコテントウ		○	○	
262			ツマアカヒメテントウ			○	
263			オニヒメテントウ			○	○
264			カグヤヒメテントウ				○
265			カワムラヒメテントウ		○	○	○
266			コクロヒメテントウ		○	○	
267			ムネアカオオクロテントウ		○	○	○
268			クロテントウ		○		
269			キシイムシ	ナガマルキシイ		○	
270		ヒラタムシ	オオキバチビヒラタムシ		○		
271	オオキノコムシ	ミヤマオビオオキノコムシ	○				
272	コメツキモドキ	キムネヒメコメツキモドキ	○				
273		ケシコメツキモドキ	○	○	○		
274	ヒメマキムシ	ヒメマキムシ		○			
275	ケシキシイ	クロハナケシキシイ			○		
276		ハラゴロデオキシイ	○				
277		クロヘリヒラタケシキシイ			○		
278		ナミヒラタケシキシイ	○				
279		マルキマダラケシキシイ	○				
280	ヒメハナムシ	キイロアシナガヒメハナムシ	○	○			
281	ホソヒラタムシ	カドコブホソヒラタムシ	○				
282	アリモドキ	ホソクビアリモドキ	○	○	○		
283		キアシクビボソムシ	○	○			
284	カミキリモドキ	モモブトカミキリモドキ	○				
285		キアシカミキリモドキ	○				
286	ハナノミダマシ	クロフナガタハナノミ	○				
287	ゴミムシダマシ	クリイロクチキムシ	○	○	○		
288		アカツヤバネクチキムシ	○	○			
289		フナガタクチキムシ	○				
290		オオメキバネハムシダマシ	○	○	○		
291		ヒゲブトゴミムシダマシ	○	○	○		
292		アオツヤキノコゴミムシダマシ	○	○			
293		ツノボソキノコゴミムシダマシ			○		
294		セスジナガキマワリ本土亜種		○			
295		ナミクチキムシ		○	○		
296		カミキリムシ	ビロウドカミキリ		○		
297	ニセビロウドカミキリ		○	○			
298	キマダラミヤマカミキリ		○				
299	トガリバアカネトラカミキリ		○				
300	ゴマダラカミキリ			○			

表 3.2.29 昆虫類確認種 (7/8)

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				春季	夏季	秋季
301	コウチュウ	カミキリムシ	シナノクロフカミキリ	○		
302			コブスジサビカミキリ		○	
303			フタオビミドリトラカミキリ	○		
304			ジュウジクロカミキリ	○		
305			ホソカミキリ		○	
306			ニイジマチビカミキリ	○	○	
307			ホシベニカミキリ	○		
308			ハイイロヤハズカミキリ	○		
309			キボシカミキリ		○	○
310			ナカジロサビカミキリ			○
311			アトジロサビカミキリ		○	
312			ヒトオビアラゲカミキリ	○		
313			イボタサビカミキリ	○		
314	ハムシ		アカガネサルハムシ		○	
315			キクピアオハムシ			○
316			サメハダツブノミハムシ			○
317			ホソリトビハムシ	○		
318			ウリハムシ		○	○
319			クロウリハムシ	○	○	○
320			アオバネサルハムシ	○	○	
321			ウスイロサルハムシ		○	
322			ヒメドウガネトビハムシ	○		
323			キバラヒメハムシ	○		
324			ムシクソハムシ	○		
325			ヒトミヒメサルハムシ	○	○	
326			チビルリツツハムシ	○		
327			キボシツツハムシ	○	○	○
328			チビカサハラハムシ	○		
329			マダラカサハラハムシ	○		○
330			カサハラハムシ	○	○	
331			イタドリハムシ	○		
332			フジハムシ	○		
333			ドウガネサルハムシ	○	○	○
334			ヤマイモハムシ	○		
335			ルイスクビナガハムシ			○
336			キアシノミハムシ	○	○	
337			ルイスケブカサルハムシ	○		
338			フタスジヒメハムシ		○	
339			ムネアカキバネサルハムシ	○	○	○
340			ツヤキバネサルハムシ	○		○
341			マルキバネサルハムシ	○		
342	オトシブミ		ヒメクロオトシブミ	○	○	
343			カシルリオトシブミ	○	○	
344	ゾウムシ		アトジロカレキゾウムシ	○		
345			ウスモンカレキゾウムシ	○		
346			トゲアシクチブトゾウムシ		○	
347			ケブカヒメカタゾウムシ	○		
348			マルモンタマゾウムシ	○		
349			クリシギゾウムシ		○	
350			タバゲササラゾウムシ		○	

表 3.2.29 昆虫類確認種 (8/8)

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				春季	夏季	秋季
351	コウチュウ	ゾウムシ	ヒメシロコブゾウムシ	○		○
352			ウスヒョウタンゾウムシ	○		○
353			マダラアシゾウムシ	○		
354			コフキゾウムシ	○	○	○
355			ハコベタコゾウムシ	○		
356			チャバネキイゾウムシ	○		○
357			ヤサイゾウムシ	○		
358			クワヒメゾウムシ	○	○	
359			カシワクチブトゾウムシ	○	○	
360			オジロアシナガゾウムシ	○	○	○
361			オオクチブトゾウムシ		○	○
362			スグリゾウムシ	○	○	○
363			ヒサゴクチカクシゾウムシ	○		
364			チビコフキゾウムシ			○
365			オサゾウムシ	トホシオサゾウムシ		
366	ハチ	ミフシハバチ	ルリチュウレンジ	○		
367		アリ	アシナガアリ		○	○
368			オオハリアリ	○	○	○
369			クロオオアリ	○	○	
370			ミカドオオアリ		○	○
371			ウメマツオオアリ	○	○	○
372			ハリブトシリアゲアリ	○	○	○
373			キイロシリアゲアリ	○	○	
374			テラニシリアゲアリ	○	○	
375			シベリアカタアリ	○		○
376			クロヤマアリ	○		○
377			トビイロケアリ	○	○	○
378			ヒメアリ		○	○
379		アメイロアリ	○	○		
380		アミアリ	○	○	○	
381		ムネボソアリ		○		
382		トビイロシワアリ	○			
383		ウメマツアリ	○	○		
384		スズメバチ	フタモンアシナガバチ本土亜種		○	
385			セグロアシナガバチ本土亜種		○	
386			コガタスズメバチ		○	○
387			オオスズメバチ	○	○	○
388		キイロスズメバチ		○	○	
389		アリバチ	ルイスヒトホシアリバチ	○		
390		ツチバチ	キオビツチバチ	○		
391		ミツバチ	セイヨウミツバチ	○		
392			コマルハナバチ本土亜種	○		
393	シロスジヒゲナガハナバチ		○			
394	キムネクマバチ			○		
合計13目120科394種				202種	254種	179種

ロ. ホタル類及びミドリシジミ類確認調査

ホタル類については、平成 20 年～24 年に 5 回にわたって親水公園の湿地にヘイケボタルの幼虫が放流され、それ以降は毎年モニタリング調査が実施されてきた。

工事完了後も 6 月から 7 月上旬にかけて調査を行ったところ、親水公園の湿地とその周辺で夜間に成虫の発光によってヘイケボタルの生息が確認された。確認状況は表 3.2.30 及び図 3.2.13 に示すとおりである。

表 3.2.30 ホタル類調査結果

調査日	ヘイケボタル成虫確認状況
6 月 7 日	25 個体
6 月 14 日	89 個体
6 月 20 日	86 個体
6 月 27 日	91 個体
7 月 4 日	58 個体



図 3.2.13 ホタル類確認状況

ミドリシジミ類は、工事前の調査では確認されなかったことから、事業実施区域には生息していないと考えられた。

工事完了後に再確認のために、6月から7月上旬にかけて現地調査を実施した結果、佐島の丘東端の保存緑地の池周辺にある小規模なハンノキ生育地で成虫が確認された。

成虫の生息が確認されたことから、さらに昆虫類相調査時に卵の探索を行ったところ、ハンノキ樹枝表面でミドリシジミの卵が10個確認された。

確認状況は表 3.2.31 と図 3.2.14 に示すとおりである。

表 3.2.31 ミドリシジミ類調査結果

調査日	ミドリシジミ確認状況
6月7日	確認なし
6月14日	オス成虫2個体
6月20日	確認なし
6月27日	オス成虫2個体
7月4日	確認なし
7月5日	卵10個

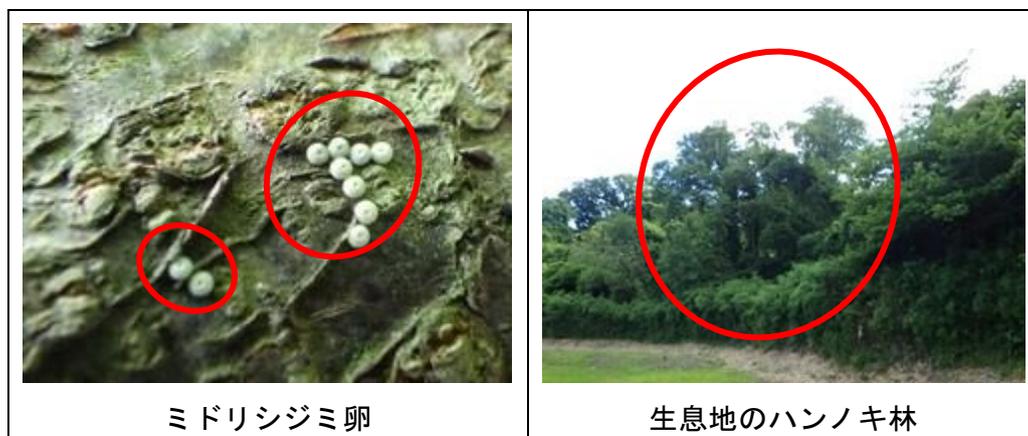


図 3.2.14 ミドリシジミ類確認状況

ハ. 重要種

現地調査で確認された種のうち、表 3.2.32 に示す法令や文献・資料等により指摘されている種を重要種とした。その結果、表 3.2.33 に示す 10 種が確認された。このうち、環境影響予測評価書における注目すべき種として、ヤマトアオドウガネ、ヘイケボタル、オオスズメバチの 3 種が確認された。重要種の確認地点は図 3.2.15 に、生態情報及び確認状況は表 3.2.34 に示すとおりである。

表 3.2.32 重要種の選定基準

選定基準	
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律 214 号)における天然記念物及び特別天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 3 年、法律 75 号)における国内希少野生動植物及び国際希少野生動植物
③	「環境省レッドリスト 2020 の公表について」(環境省、令和 2 年 3 月)の掲載種
④	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館、平成 18 年 7 月)の掲載種
⑤	「佐島の丘開発事業環境影響予測評価書」(京浜急行電鉄株式会社、平成 12 年 12 月)において注目すべき種とされた種 チョウトンボ、ヤマトアオドウガネ、ヘイケボタル、オオスズメバチ、コキマダラセセリ

表 3.2.33 重要種（昆虫類）

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
1	トンボ	ヤンマ	コシボソヤンマ				要	
2		カワトンボ	ハグロトンボ				要	
3		トンボ	ナツアカネ				要	
4	バッタ	キリギリス	ヒガシキリギリス				要	
5		ケラ	ケラ				要	
6	チョウ	シジミチョウ	ミドリシジミ				NT	
7	コウチュウ	コガネムシ	ヤマトアオドウガネ					●
8		タマムシ	タマムシ				要	
9		ホタル	ヘイケボタル				NT	●
10	ハチ	スズメバチ	オオスズメバチ					●
合計 5 目 10 科 10 種				0 種	0 種	0 種	8 種	3 種

注) 重要種選定基準の評価区分は以下のとおりである。

- ① 特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
- ② 国内：国内希少野生動植物種 特定：特定国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
- ③ EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足、要：要注意、減：減少種、希：希少種、注：注目種、不：不明種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑤ 注目すべき種

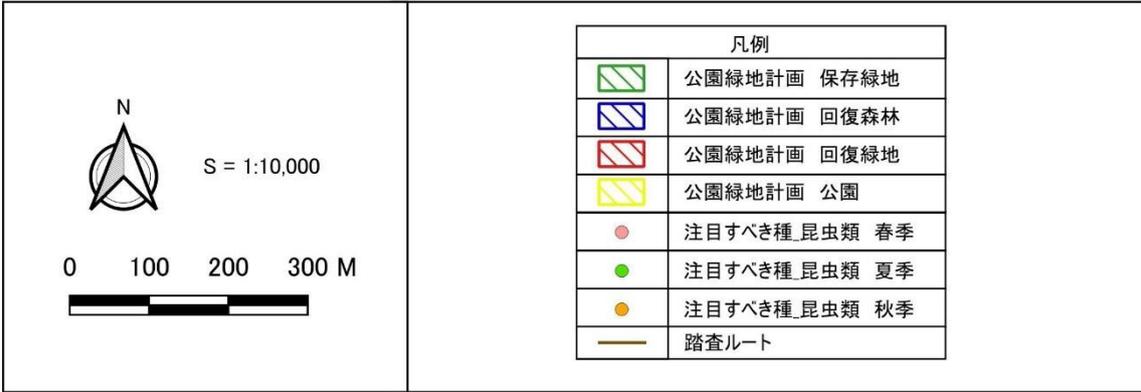
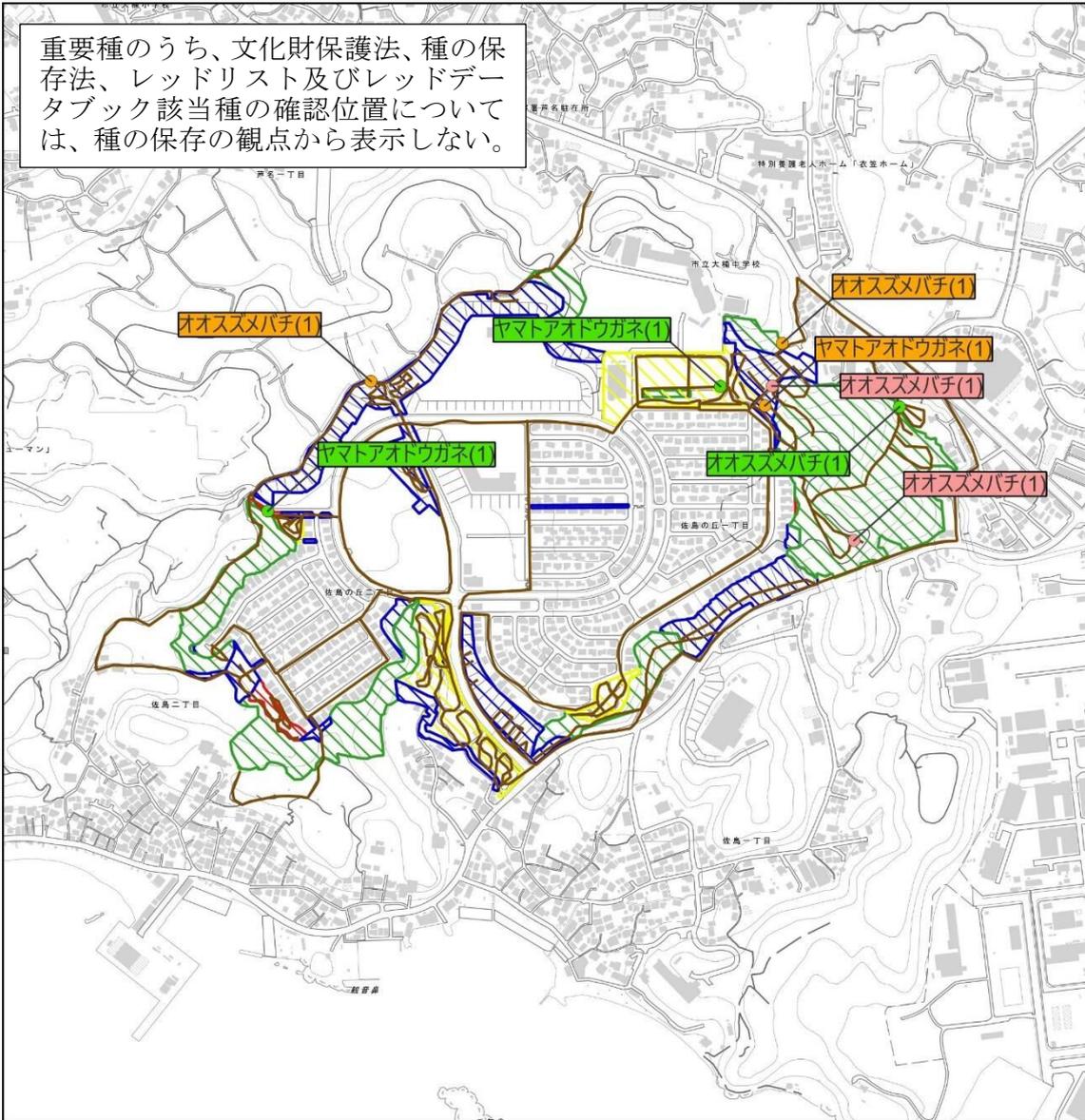


図 3.2.15 昆虫類重要種確認地点

表 3.2.34 確認された重要種の生態情報及び確認状況 (1/10)

コシボソヤンマ (ヤンマ科)	
指定状況	県 RDB : 要注意
種の概要	<p>幼虫は水のきれいな流れに生息し、水中で小動物を捕食する。成虫は、日中ほとんど林内に潜んでおり、早朝と夕方に流れの上やその近くを飛ぶ。水際の植物の根元や朽木等に産卵する。</p>
分 布	本州、四国、九州
確認状況	夏季に保存緑地の樹林内で成虫が 1 個体確認された。



令和 6 年 7 月 5 日撮影

表 3.2.34 確認された重要種の生態情報及び確認状況 (2/10)

ハグロトンボ (カワトンボ科)	
指定状況	県 RDB : 要注意
種の概要	<p>幼虫は緩やかな流れに生息し、水中の小動物を捕食する。羽化後の未熟な個体は、水辺から離れて木陰の多い林縁で生活し、成熟すると水辺に戻る。水中の水草等に産卵する。</p>
分 布	本州、四国、九州
確認状況	夏季の鳥類調査時に、回復森林の林縁部で成虫が 1 個体確認された。



令和 6 年 6 月 27 日撮影

表 3.2.34 確認された重要種の生態情報及び確認状況 (3/10)

ナツアカネ (トンボ科)	
指定状況	県 RDB：要注意
種の概要	幼虫は平地の水田や湿地に生息し、水中の小動物を捕食する。羽化後の若いときは付近の林内で生活し、秋になると水辺に出てくる。水田の刈り跡や水草で覆われた池に産卵する。
分布	北海道、本州、四国、九州
確認状況	秋季に回復森林の林縁部で成虫が1個体確認された。



令和6年10月1日撮影

表 3.2.34 確認された重要種の生態情報及び確認状況 (4/10)

ヒガシキリギリス (キリギリス科)	
指定状況	県 RDB：要注意
種の概要	日当たりがよく、草丈の高い草地、水田や畑の脇に生息する。成虫は6~9月に出現し、チョンギースと大きな声で鳴く。幼虫、成虫ともに雑食性。卵で越冬する年1化性。
分布	本州 (青森県~岡山県東部)
確認状況	夏季に、回復森林のクヌギが点在するイネ科高茎草地で成虫が1個体確認された。このほかに、調査範囲外の造成地に形成された草地等でも3地点で計4個体が鳴き声により確認された。



令和6年7月5日撮影

表 3.2.34 確認された重要種の生態情報及び確認状況 (5/10)

ケラ (ケラ科)	
指定状況	県 RDB : 要注意
種の概要	土中にトンネルを掘って生活し、雌雄ともに穴の中で鳴く。水田や畑の畔、草地等で見られる。雑食性で、土中の小動物や草の根等を食べる。灯火に飛来することもある。
分布	北海道～南西諸島
確認状況	夏季に親水公園の草地で幼虫が 1 個体確認された。

令和 6 年 7 月 3 日撮影



表 3.2.34 確認された重要種の生態情報及び確認状況 (6/10)

ミドリシジミ (シジミチョウ科)	
指定状況	県 RDB : 準絶滅危惧
種の概要	低地から山地にかけて、河川敷や水田周辺のハンノキ林に生息し、成虫は 6～7 月に発生する。食樹はカバノキ科のハンノキ、ヤマハンノキ、ミヤマハンノキ。卵で越冬する。
分布	北海道、本州、四国、九州
確認状況	ホタル類及びミドリシジミ類確認調査において、保存緑地のハンノキ生育地で 6 月 14 日と 27 日にそれぞれ成虫 2 個体が確認された。また、7 月 5 日に同ハンノキ生育地のハンノキ樹枝上で卵が 10 個確認された。

令和 6 年 7 月 5 日撮影



表 3.2.34 確認された重要種の生態情報及び確認状況 (7/10)

ヤマトアオドウガネ (コガネムシ科)	
指定状況	予測評価書：注目すべき種
種の概要	アオドウガネとほぼ同様の分布域を持つが、海岸周辺等より水辺の近くで発生することが多い。灯火に飛来し、日中は海岸付近の草地や灌木葉上で見られることがある。
分布	本州、伊豆諸島、四国、九州
確認状況	夏季の鳥類調査時に、公園のサクラ植栽木上で成虫が1個体確認された。また昆虫類調査時に、回復緑地のヤシヤブシ植栽木上で成虫が1個体確認された。 秋季に回復森林で成虫が1個体確認された。

令和6年6月27日撮影



表 3.2.34 確認された重要種の生態情報及び確認状況 (8/10)

タマムシ (タマムシ科)	
指定状況	県 RDB：要注意
種の概要	成虫は6~8月に出現し、サクラやエノキ、ケヤキ等の葉を摂食する。日中は樹上を飛翔する様子がよく見られる。幼虫はサクラやエノキ、ケヤキ等の材部を食べて育つ。
分布	本州、四国、九州、南西諸島
確認状況	夏季に回復森林のエノキ樹上で成虫が5個体確認された。また、ホタル類及びミドリシジミ類確認調査時にも保存緑地のエノキ樹上で成虫が1個体確認された。

令和6年7月4日撮影



表 3.2.34 確認された重要種の生態情報及び確認状況 (9/10)

ヘイケボタル (ホタル科)	
指定状況	県 RDB：準絶滅危惧 予測評価書：注目すべき種
種の概要	低地から山地にかけて生息し、幼虫は止水域で見られる。成虫は年 1 回、5 月下旬～8 月に発生する。幼虫はカワニナやヒメタニシ、ヒメモノアラガイ等の水生巻貝類を餌とする。
分 布	北海道、本州、四国、九州
確認状況	夏季のホタル類及びミドリシジミ類確認調査類調査において、親水公園の湿地と隣接する樹林内で 6 月 7 日に成虫 25 個体、6 月 14 日に成虫 89 個体、6 月 20 日に成虫 86 個体、6 月 27 日に成虫 91 個体、7 月 4 日に成虫 58 個体、合計 349 個体が確認された。



令和 6 年 7 月 3 日撮影

表 3.2.34 確認された重要種の生態情報及び確認状況 (10/10)

オオスズメバチ (スズメバチ科)	
指定状況	予測評価書：注目すべき種
種の概要	越冬した女王バチは、初夏に地中や樹洞等に鐘状の巣を作る。働きバチは夏に羽化し、秋に最大数となる。幼虫の餌はコガネムシや鱗翅類の幼虫、クモ等。攻撃性が強く、毒性は激しい。
分 布	北海道、本州、四国、九州
確認状況	春季に回復森林で成虫 1 個体及び保存緑地で成虫 1 個体が確認された。 夏季に保存緑地で成虫が 1 個体確認された。 秋季に保存緑地で成虫が 1 個体及び回復森林で成虫 1 個体が確認された。



令和 6 年 5 月 23 日撮影

(5) 土壌動物

イ. 土壌動物相調査

現地調査で確認された土壌動物は 3 門 8 綱 69 種であり、環形動物、軟体動物、節足動物と多岐にわたっていた。これらは、いずれも三浦半島を含む関東地方南部で普通に見られる一般的なものであった。現地調査の結果概要は表 3.2.35 に示すとおりである。

表 3.2.35 土壌生物の現地調査結果

門名	綱名	種数	調査地点									
			a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
環形動物	マキガイ	2		1							2	
軟体動物	ミミズ	2	2	2	2	2					2	2
節足動物	エダヒゲムシ	1										1
	クモ	7	1	4	3		1	1	1	2	5	2
	甲殻	4	3	2	1	4	2	1	1	2	4	
	ヤスデ	3	1	2	2	1					3	
	ムカデ	4	1		1	2					1	1
	昆虫	46	10	15	20	9	1	8	7	20	9	7
3門	8綱	69種	18種	26種	29種	18種	4種	10種	9種	32種	22種	9種

ロ. 重要種

現地調査で確認された種のうち、表 3.2.36 に示す法令や文献・資料等により指摘されている種を重要種とした。その結果、重要種に該当する種は確認されなかった。

表 3.2.36 重要種の選定基準

選定基準	
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律 214 号)における天然記念物及び特別天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 3 年、法律 75 号)における国内希少野生動植物及び国際希少野生動植物
③	「環境省レッドリスト 2020 の公表について」(環境省、令和 2 年 3 月)の掲載種
④	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館、平成 18 年 7 月)の掲載種

3) 水生生物

(1) 底生生物 (ベントス)

イ. 底生生物相調査

調査範囲において生息が確認された底生生物は、表 3.2.37 に示すとおり合計 6 綱 11 目 18 科 29 種であった。

調査範囲は親水公園の湿地として整備されており、水域は流れの緩やかな水路と池で構成されている。水路では緩流域に生息するカワニナ、ヘイケボタル、オオシオカラトンボ、ユスリカ類等が確認され、池では砂泥に生息するユリミミズ、エラオイミズミミズ等のミズミミズ類、アメリカザリガニ等が確認されたほか、水際のヨシ帯ではケシカタビロアメンボ、コマツモムシ等が確認された。

表 3.2.37 底生生物確認種

No.	綱名	目名	科名	種名	水路		池					
					春	夏	春	夏				
1	渦虫	三岐腸	サンカクアタマウズムシ	アメリカツノウズムシ	44	102		1				
2	腹足	新生腹足	カワニナ	カワニナ	7							
3	二枚貝	マルスダレガイ	マメシジミ	マメシジミ属	63							
4	ミミズ	オヨギミミズ	オヨギミミズ	オヨギミミズ属		1						
5				オヨギミミズ科	1		1					
6				イトミミズ	ミズミミズ	エラオイミズミミズ			47	12		
7		ウチワミミズ属					24	12				
8		ミズミミズ亜科					3					
9		ナガレイトミミズ亜科						6				
10		モトムラユリミミズ						5				
11		ユリミミズ						51	53			
12		イトミミズ亜科						63	18			
13					ミズミミズ科	58		147				
14		軟甲	ワラジムシ	ミズムシ (甲)	ミズムシ (甲)	165	455					
15			エビ	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ		4	10	10			
16		昆虫	トンボ	トンボ	オオシオカラトンボ	5						
17	カメムシ				アメンボ	ヤスマツアメンボ	1	1				
18						カタビロアメンボ				1		
19			マツモムシ	コマツモムシ				4	2			
20	ハエ		ノミバエ	ノミバエ科	ノミバエ科	117						
21					コシボソガガンボ	コシボソガガンボ属	8	19				
22					ケヨソイカ	ケヨソイカ科			2	30		
23					ユスリカ	ユスリカ	モンヌマユスリカ属		25			
24							ピロウドエリユスリカ属	3				
25		ユスリカ属					12	16				
26		ホソカ			ニッポンホソカ	3						
27		(ハエ目)			ハエ目	3						
28	コウチュウ	ガムシ	ヒラタガムシ属	ヒラタガムシ属	6	14						
29				ホタル	ヘイケボタル	1						
合計					6綱	11目	18科	29種類	16種	9種	10種	11種

ロ. 重要種

現地調査で確認された種のうち、表 3.2.38 に示す法令や文献・資料等により指摘されている種を重要種とした。その結果、春季及び夏季調査で表 3.2.39 に示すヘイケボタル 1 種が確認された。重要種の確認地点は図 3.2.16 に、生態情報及び確認状況は表 3.2.40 に示すとおりである。

表 3.2.38 重要種の選定基準

選定基準	
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律 214 号)における天然記念物及び特別天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 3 年、法律 75 号)における国内希少野生動植物及び国際希少野生動植物
③	「環境省レッドリスト 2020 の公表について」(環境省、令和 2 年 3 月)の掲載種
④	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館、平成 18 年 7 月)の掲載種
⑤	「佐島の丘開発事業環境影響予測評価書」(京浜急行電鉄株式会社、平成 12 年 12 月)において注目すべき種とされた種

表 3.2.39 重要種(水生生物)

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
1	コウチュウ	ホタル	ヘイケボタル				NT	
合計 1 目 1 科 1 種				0 種	0 種	0 種	1 種	0 種

注) 重要種選定基準及び評価区分は以下のとおりである。

- ① 特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
- ② 国内：国内希少野生動植物種 特定：特定国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
- ③ EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足、要：要注意、減：減少種、希：希少種、注：注目種、不：不明種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑤ 注目すべき種

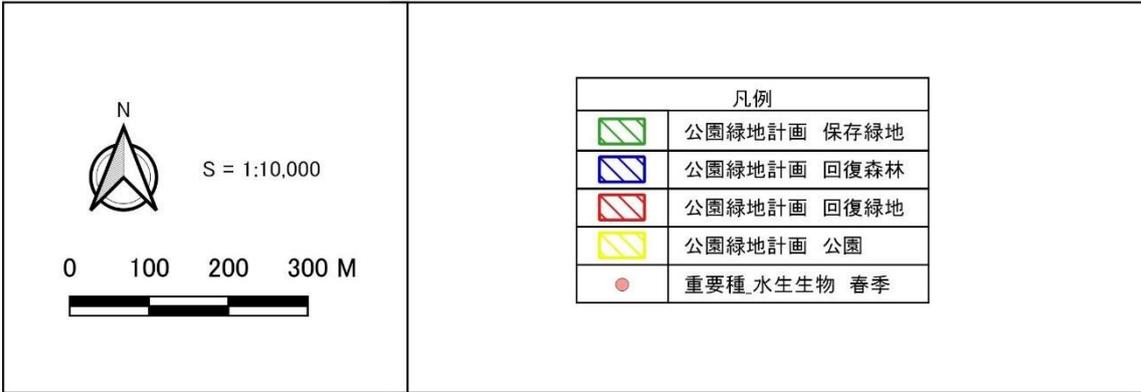
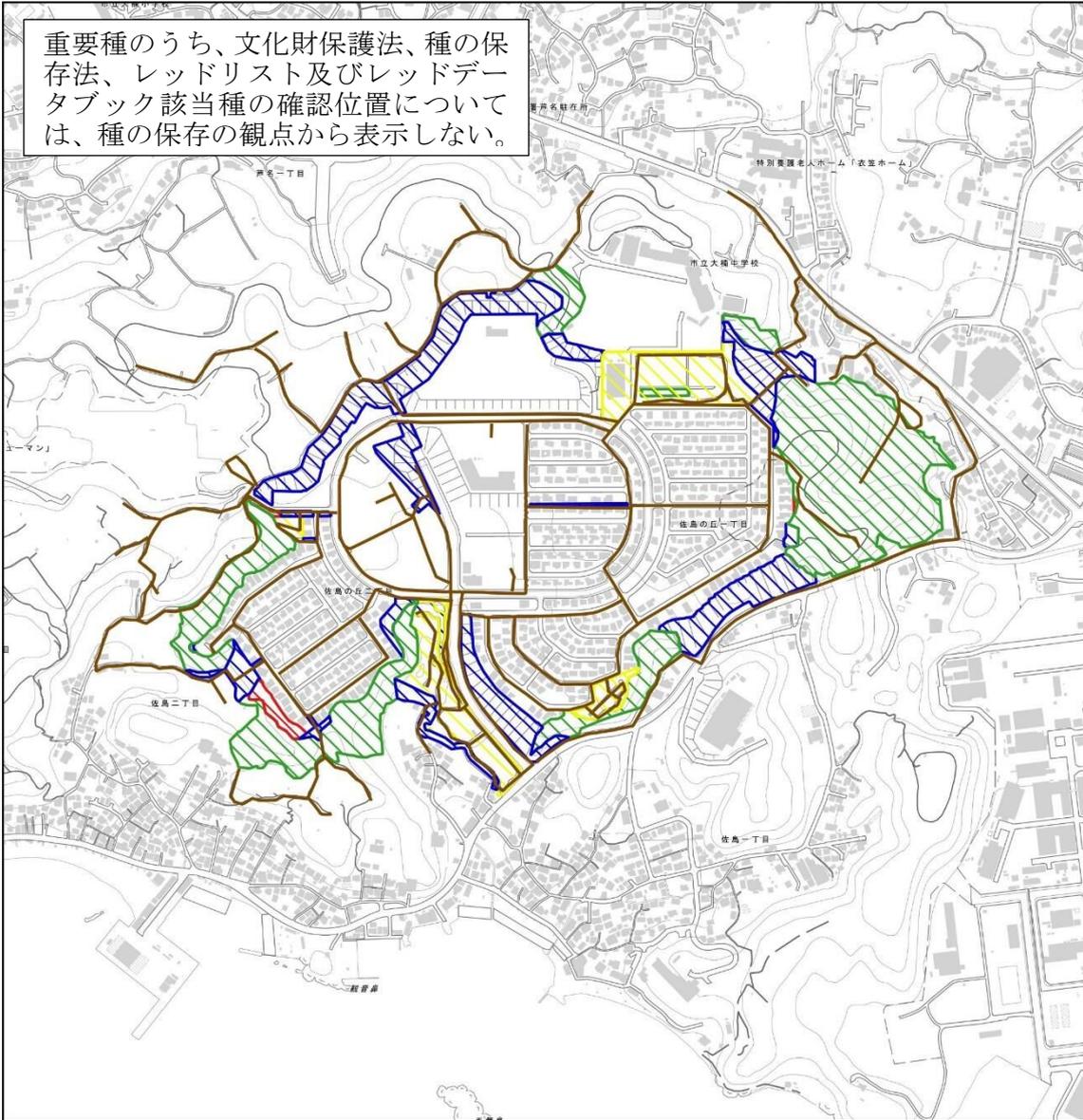


図 3.2.16 水生生物重要種確認地点

表 3.2.40 確認された重要種の生態情報及び確認状況

ヘイケボタル (ホタル科)	
指定状況 ^{注)}	県 RDB：準絶滅危惧
種の概要	低地から山地にかけて生息し、幼虫は止水域で見られる。成虫は年1回、5月下旬～8月に発生する。幼虫はカワニナやヒメタニシ、ヒメモノアラガイ等の水生巻貝類を餌とする。
分布	北海道、本州、四国、九州
確認状況	春季調査において、水路で幼虫1個体が確認された。



令和6年5月13日撮影

注)「佐島の丘開発事業環境影響予測評価書」(京浜急行電鉄株式会社、平成12年12月)では、水生生物調査でヘイケボタルが確認されていないため、本種は水生生物の注目すべき種として取り上げられていない。しかし、昆虫類調査では確認されており、昆虫類の注目すべき種として選定されている。

第3章 景観

1) 大楠平展望所（ハイキングコース）

大楠平展望所（標高 210m）からは、三浦半島の山並みが織りなす稜線を越えて佐島の丘陵地が展望され、さらに遠景に小田和湾及び長井地区、晴れた日には伊豆大島が望まれる。

対象事業実施による景観の変化は図 3.3.1 に示すとおりである。

工事完了後は、佐島の丘陵の一部が切土されたため、のり面が出現することになり、新たに造成地が眺望されたが、のり面は回復森林として整備されたことから、周辺の緑地と連担した緑が確保されていた。さらに大楠山展望所は相模湾方向が主要な展望方向であり、実施区域方向は、春季から秋季にかけては樹林が繁茂し、その隙間から展望される程度である。

また、スカイラインを超えることなく、佐島の丘陵前面の住宅地の構造物及び周辺の緑の自然景観と背後の海の景観に一体となっていた。



図 3.3.1 大楠山展望所（ハイキングコース）の写真（1/2）

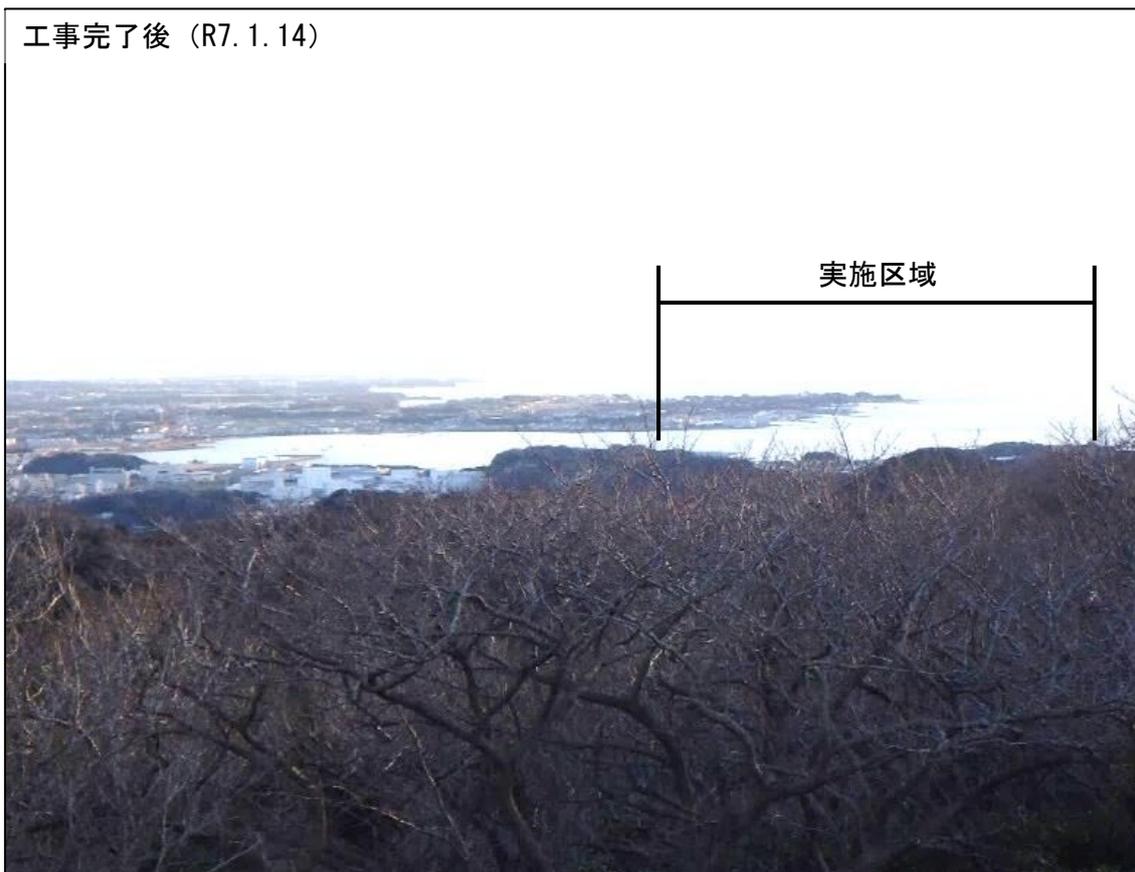


図 3.3.1 大楠山展望所（ハイキングコース）の写真（2/2）

2) 武山不動（ハイキングコース）

武山不動（標高 200m）からは、武、林、長坂の住宅地の背後に佐島の丘陵が展望され、さらに遠景に相模湾、天気の良い日には湾上に富士山が望まれる。

対象事業の実施による景観の変化は図 3.3.2 に示すとおりである。

工事完了後は、佐島の丘陵の標高 50～60m の台地部の一部が切土されたため、新たに造成地が眺望されたが、回復森林や敷地内緑化等により実施区域全体の約 55%が緑化されたことから、保存緑地等周辺の森林と連担した緑が確保されていた。なお、展望地点からは春季から秋季にかけては樹林が繁茂するため、樹林の隙間から実施区域が展望される程度である。

また、スカイラインを超えることなく、佐島の丘陵前面の住宅地の構造物及び周辺の緑の自然景観と背後の海の景観に一体となっていた。

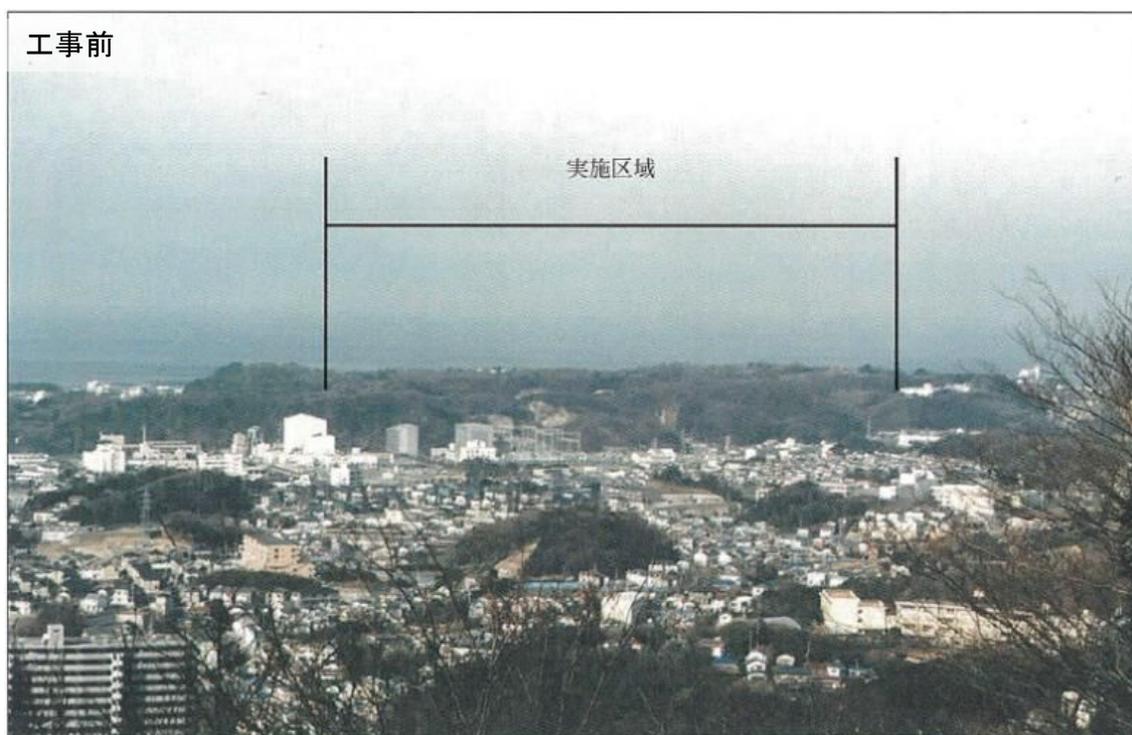


図 3.3.2 武山不動（ハイキングコース）の写真（1/2）

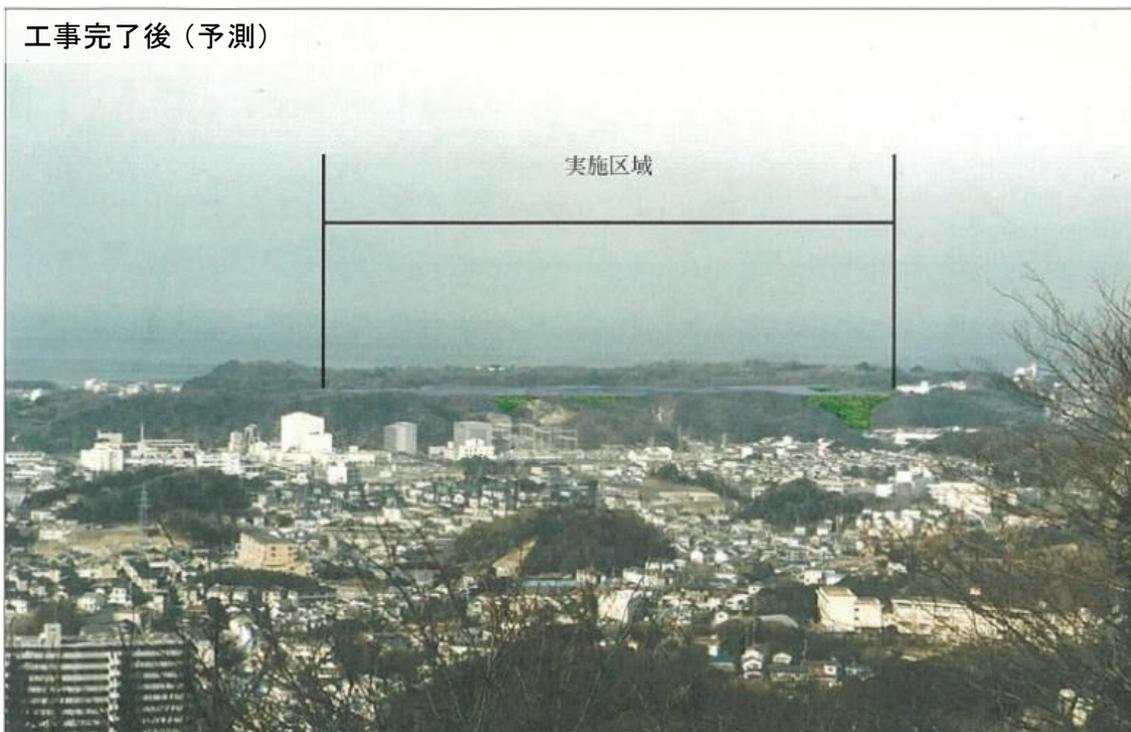


図 3.3.2 武山不動（ハイキングコース）の写真（2/2）

3) 富浦公園

富浦公園は小田和湾に面した場所に位置しており、小田和湾をはさんで佐島の丘陵を含む三浦半島の大楠山から西へ延びる稜線が望まれる。

対象事業の実施による景観の変化は図 3.3.3 に示すとおりである。

工事完了後は、造成のり面の一部が実施区域の前面に位置する丘陵（標高 30～50m）の尾根越しに望まれたが、敷地内緑化を進めたことにより、現況のスカイラインを構成している大楠山周辺の自然の中に溶け込んでいた。

また、建築物はスカイラインを超えることなく周辺の自然景観と一体となっていた。



図 3.3.3 富浦公園の写真 (1/2)

工事完了後（予測）



工事完了後（R7.1.14）



図 3.3.3 富浦公園の写真（2/2）

4) 長坂公園付近

かつては長坂公園付近からは長坂3丁目、4丁目の住宅地をはさんで約1kmでほぼ水平に佐島の丘陵が望まれたが、眺望点は現在一般企業の私有地となっており、立ち入り可能な範囲からは事業実施区域は展望されなかった。

対象事業の実施による景観の変化は図3.3.4に示すとおりである。



図 3.3.4 長坂公園付近の写真 (1/2)

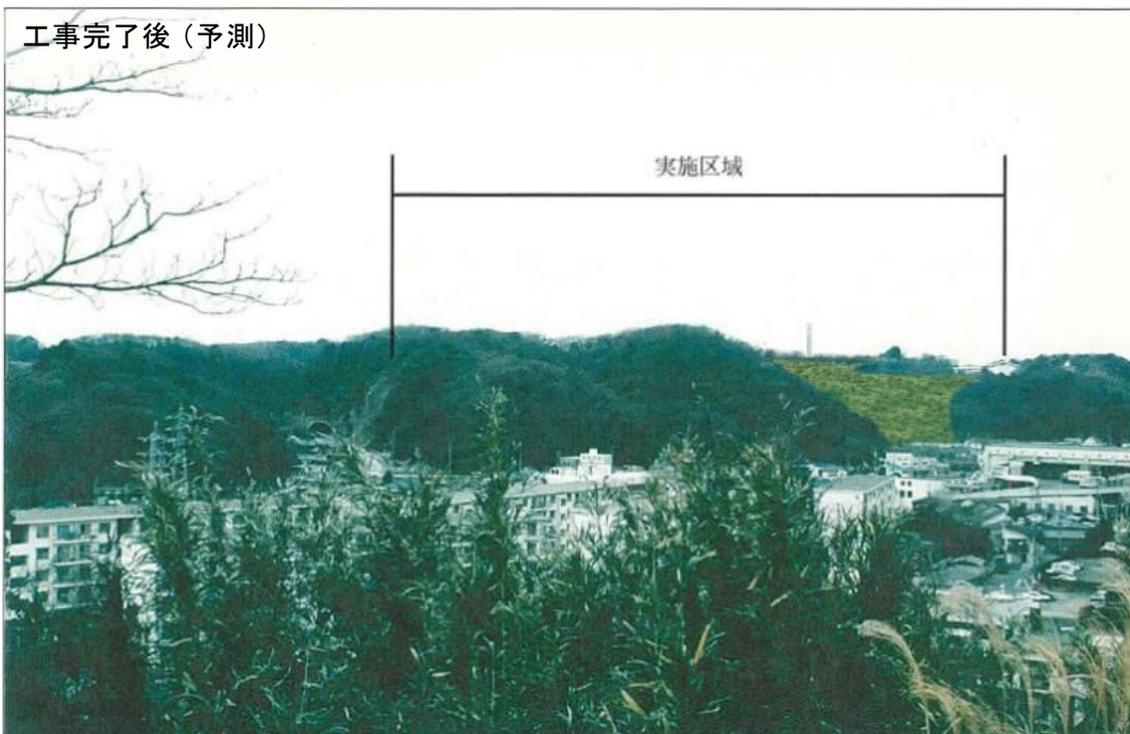


図 3.3.4 長坂公園付近の写真（2/2）

5) 長坂 3 丁目、荻野及び太田和 2 丁目付近の住宅地

国道 134 号の東側の住宅地である長坂 3 丁目、荻野、太田和 2 丁目付近から佐島の丘陵が望まれる展望地点として、実施区域から 1.5km の荻野公園付近を選定した。展望地点からは、現況で市立大楠中学校の体育館が望まれる。

対象事業の実施による景観の変化は図 3.3.5 に示すとおりである。

工事完了後は、東側ののり面の一部が保存緑地の背後に望まれることになる。しかし、のり面は回復森林として整備されたため、保存緑地と連担した緑の景観が確保されていた。

また、建築物は保存緑地の背後となり、住宅地等からは展望されなかった。

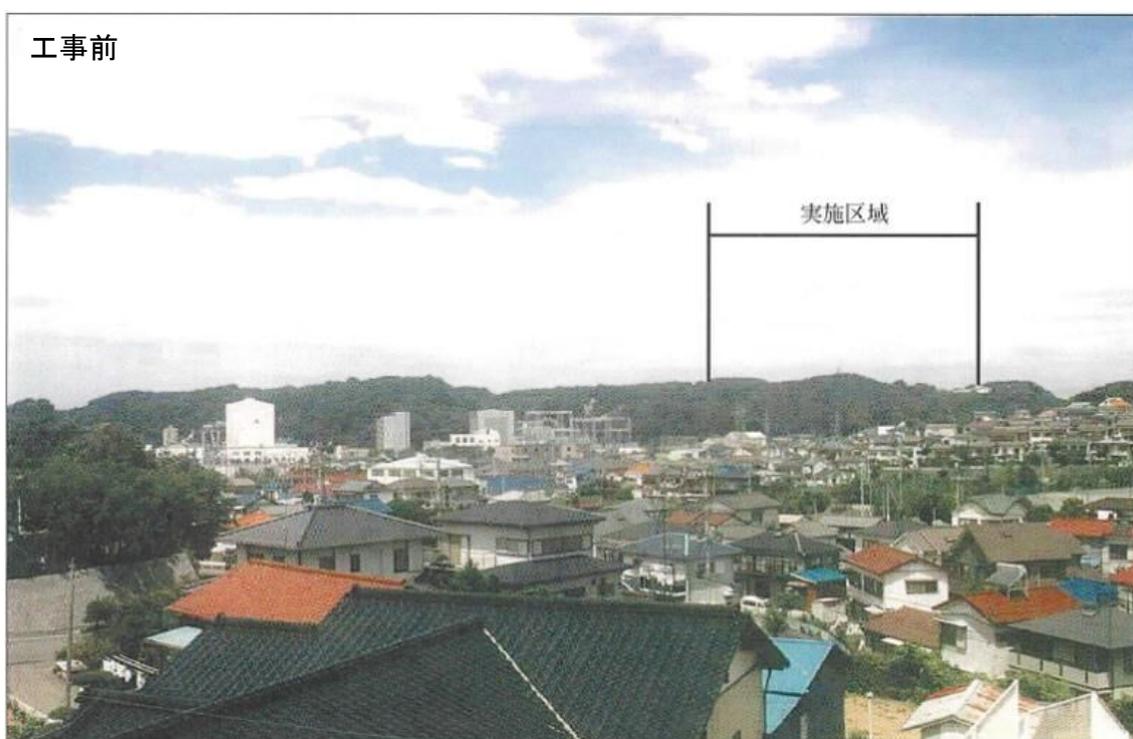


図 3.3.5 長坂 3 丁目、荻野及び太田和 2 丁目付近の住宅地の写真 (1/2)

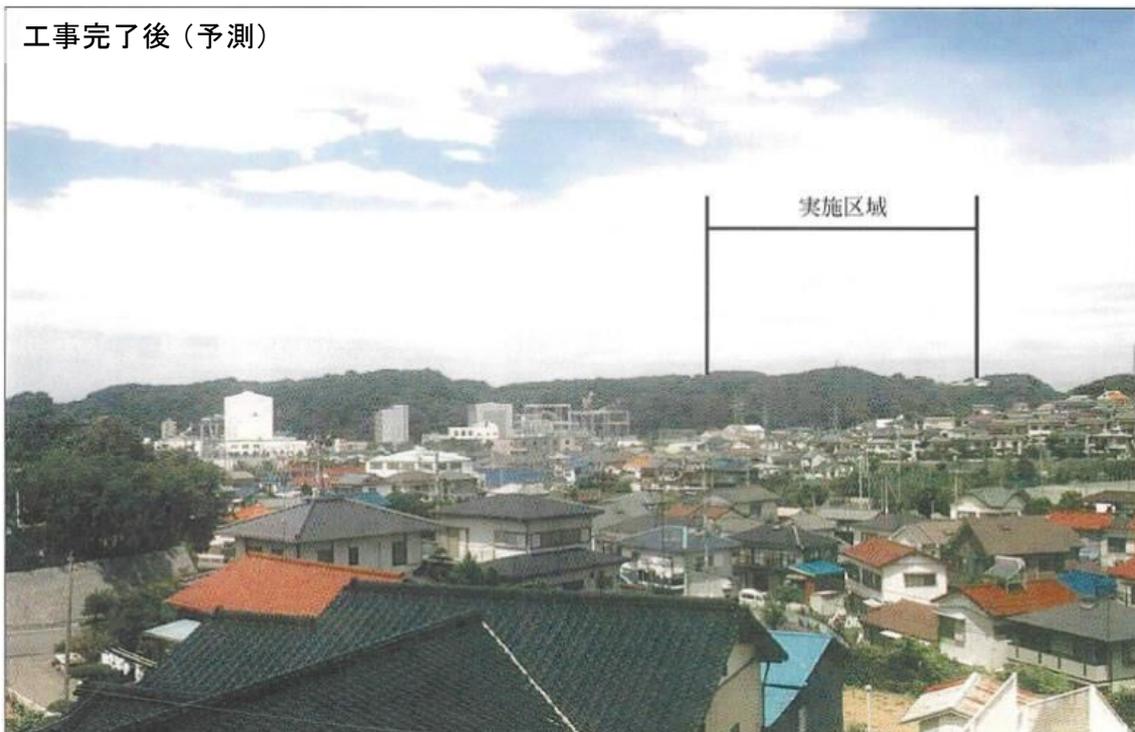


図 3.3.5 長坂3丁目、荻野及び太田和2丁目付近の住宅地の写真（2/2）

別添 4. 調査等の結果との検証結果

第1章 植物（注目すべき植物種、植物群落）	143
第2章 植物・動物・生態系	144
第3章 景観	183

別添 4. 調査等の結果との検証結果

第 1 章 植物（注目すべき植物種、植物群落）

注目すべき植物種及び植物群落の保全については、改変部に生育する対象種を調査、残存樹林等に移植を実施し、移植後の活着状況調査を継続している。

エビネ、コ克蘭については、移植後 22 年が経過したが、毎年、新たな芽や花が確認できているため、生育は良好と思われる。

マテバシイ群落については、移植当初に枯損（全 34 本中 7 本）が見られたが、その後は、樹高の伸長が見られるなど、生育は良好と思われる。移植後 22 年が経過した。

ヤブコウジースダジイ群集については、移植後 19 年が経過したが、樹高の伸長が見られ、生育は良好と思われる。

タチヤナギ群落については、平成 14 年度に仮移植を行った後、平成 18 年度に親水公園内の再生湿地に移植を実施している。移植後 21 年が経過したが、生育は良好であり、周辺には種子から発芽、定着した株も見られる。また、カサスゲは生育範囲が拡大していることから、生育は良好と思われる。

ヨメナについては、平成 16 年度に移植後、移植地の環境が悪化したことから、平成 19 年度に再移植を実施した。その後、平成 27 年度までは毎年開花や新たな芽の伸長が確認され、良好な生育が続いていたが、平成 28 年度に、近隣住民が実施したと思われる草刈り及び刈り草の堆積により、個体を確認することができなかった。堆積した刈り草を撤去し、発芽状況の確認を継続してきたが、令和 5 年度までの 7 年間で個体の確認はできておらず、消失した可能性が高い。

ヨメナの移植地は、横須賀市の保全緑地内であり、フェンスに囲まれ、一般の人が立ち入りできない場所であったため、草刈り等は予測不可能な事象であった。その後速やかに移植地の復旧を行い、観察の継続等できる限りの対策を実施した。

以上のことから、これまでに植物（注目すべき植物種及び植物群落）に係る環境保全対策を適切に実施してきたが、ヨメナ移植地では当初想定されていなかった地域住民らの草刈りによる改変を受け、平成 28 年度以降、移植個体が確認されていない状況がある。今後は、植物の移植地である保全緑地や湿地環境の創出を行った親水公園での維持管理が適切に実施されるように、管理者の横須賀市と調整を図っていく。

以上より、工事完了後においては、適切な保全対策が実施できていることが確認されたことから、環境保全対策は適切であったと考えられる。

第2章 植物・動物・生態系

1) 植物

(1) 植物相

工事前後の植物相の変化は図 4.2.1 及び表 4.2.1 に、適潤～湿生植物の工事前後の変化は表 4.2.2 に、林縁植物の工事前後の変化は表 4.2.3 に示すとおりである。

工事完了後の調査結果と平成 7～11 年度に実施された工事前の調査結果から、工事前後の植物相の変化について以下のとおり検証した。なお工事前の比較対象は、事業実施区域の植物相調査結果とする。

工事前に実施された平成 7～11 年度の調査で 48 目 102 科 385 種の維管束植物が確認されている。工事完了後の調査では 44 目 98 科 381 種が確認され、確認種数は概ね同程度であった。

重要種については、工事前には 3 種が確認されたが、工事完了後では 4 種が確認された。このうち、ハチジョウシダ及びアイノコシラスゲは工事完了後に初めて確認された種である。環境影響予測評価書で注目すべき種とされた種のうち、エビネ及びコクランは工事完了後も確認されたが、ヨメナは再確認することができなかった。ヨメナは前述のとおり移植した個体が平成 28 年度に草刈りの刈り草を移植地に積まれたことにより、生育個体が見出せなかった。それ以降も再確認することができず、消失した可能性が高い。

工事前後ともに照葉樹林やコナラ林の種が主体であり、ベニシダ、アスカイノデ、ヤブニッケイ、タブノキ、コナラ及びヒサカキ等多くの樹林生の種が共通して確認された。また、親水公園として整備した湿地内では、工事完了後においても湿生植物相の維持が確認された。工事完了後は、ヒメシダ、ハンゲショウ、ウシノシッペイ、クサヨシ及びチョウジタデ等、一部の湿生植物を欠くが、ガマやカサスゲ、ヨシ、オギ及びシロバナサクラタデ等の主要な種は親水公園で再確認されている。親水公園の創出が、谷津田の改変による湿生植物の消失を回避するとともに、それらの保全に寄与しているものと考えられる。耕作地雑草や草地生の種については、相対的に少なかった。これは、工事完了後の調査範囲に耕作地が含まれず、草地環境も限定的であったことによる。

林内の乾燥化の判定に用いた適潤～湿生植物に関しては、工事前は 18 目 31 科 52 種、工事完了後は 20 目 33 科 59 種が確認されており、種数の大きな変化はみられなかった。林縁植物については、工事前は 19 目 28 科 52 種、工事完了後は 21 目 30 科 51 種が確認されており、同様に大きな変化はみられなかった。指標にした植

物の出現状況を見る限り、林内乾燥化の兆候は認められない。

以上より、工事完了後においては保存緑地、回復森林及び回復緑地の樹林や親水公園の湿地を中心として植物相の多様性が保全・創出されていることから、環境保全対策は適切であったと考えられる。

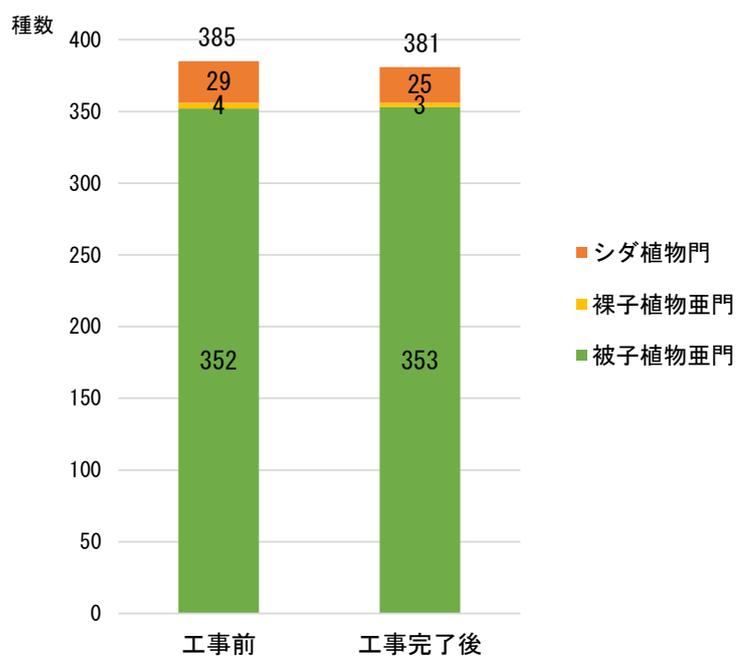


図 4.2.1 工事前後の植物相の変化

表 4.2.1 工事前後の植物相の変化 (1/6)

No.	門名	亜門名	綱名	目名	科名	種名	工事前	工事後	選定基準												
									①	②	③	④	⑤								
1	シダ植物門	-	大葉シダ綱	トクサ目	トクサ科	スギナ	○	○													
2				ハナヤスリ目	ハナヤスリ科	オオハナワラビ	○	○													
3				ゼンマイ目	ゼンマイ科	ゼンマイ	○	○													
4				フサシダ目	カニクサ科	カニクサ	○	○													
5				ウラボシ目	ホングウシダ科	ホラシノブ	○	○													
6					コバノイシカグマ科	イヌシダ	○	○													
7						フモトシダ	○	○													
8					イノモトソウ科	ホウライシダ	○	○													
9						タチシノブ	○	○													
10						オオバノイノモトソウ	○	○													
11						ハチジョウシダ	○	○								EN					
12						イノモトソウ	○	○													
13						マツサカシダ	○	○													
14					ヒメシダ科	ミドリヒメワラビ	○	○													
15						ホシダ	○	○													
16						ヒメシダ	○	○													
17						ミゾシダ	○	○													
18					シシガシラ科	コモチシダ	○	○													
19					メシダ科	イヌワラビ	○	○													
20						シケシダ	○	○													
21					オシダ科	オニカナワラビ	○	○													
22						ホソバカナワラビ	○	○													
23						リョウメンシダ	○	○													
24						ナガバヤブソテツ	○	○													
25						オニヤブソテツ	○	○													
26						キブソテツ	○	○													
27						テリハヤブソテツ	○	○													
28						ヤマイタチシダ	○	○													
29						ベニシダ	○	○													
30						ベニオオイタチシダ	○	○													
31						キンキイタチシダ	○	○													
32						クマワラビ	○	○													
33						アイノコクマワラビ	○	○													
34						トウゴクシダ	○	○													
35						オクマワラビ	○	○													
36						アスカイノデ	○	○													
37						アイアスカイノデ	○	○													
38						イノデ	○	○													
39	種子植物門	裸子植物亜門	-	マツ目	マツ科	アカマツ	○	○													
40				ナンヨウスギ目	マキ科	イヌマキ	○	○													
41				ヒノキ目	ヒノキ科	スギ	○	○													
42		被子植物亜門	-	シキミ目	マツヅサ科	イヌガヤ	○	○													
43					マツヅサ科	サネカズラ	○	○													
44					コショウ目	ドクダミ科	ドクダミ	○	○												
45						ハンダショウ	○	○													
46						コショウ科	フウトウカズラ	○	○												
47						ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ	○	○												
48							オオバウマノスズクサ	○	○												
49						クスノキ目	クスノキ科	クスノキ	○	○											
50							ヤブニッケイ	○	○												
51							ダケイジュ	○	○												
52							タブノキ	○	○												
53							シロダモ	○	○												
54					単子葉類	-	ショウブ目	ショウブ科	セキショウ	○	○										
55								オモダカ目	サトイモ科	マムシガサ	○	○									
56										ウラシマソウ	○	○									
57										サトイモ	○	○									
58										アオウキタサ	○	○									
59										コウキクサ	○	○									
60										カラスビシャク	○	○									
61									ヤマノイモ目	ヤマノイモ科	ヤマノイモ	○	○								
62										カエデコロロ	○	○									
63										オニドロコ	○	○									
64									ユリ目	イヌサフラン科	ホウチヤクソウ	○	○								
65										チゴユリ	○	○									
66										サルトリイバラ科	サルトリイバラ	○	○								
67										シオデ	○	○									
68										ヤマユリ	○	○									
69										シンテツボウユリ	○	○									
70										ホトトギス	○	○									
71									クサスギカズラ目	ラン科	シラン	○	○								
72				エビネ				○	○							NT	NT	●			
73				サイハイラン				○	○												
74				シュンラン				○	○												
75				ミヤマウズラ				○	○												
76				コ克蘭				○	○									●			
77				ネジバナ				○	○												
78			アヤメ科	ヒメヒオウギズイセン				○	○												
79			ニワゼキショウ	○				○													
80			ススキノキ科	ヤブカンゾウ				○	○												
81			ヒガンバナ科	ノビル	○	○															
82			ハナニラ	○	○																
83			ヒガンバナ	○	○																
84			キツネノカミソリ	○	○																
85			スイセン	○	○																
86			クサスギカズラ科	ツルボ	○	○															
87			ヒメヤブラン	○	○																
88			ヤブラン	○	○																
89			ノシラン	○	○																
90			ジャノヒゲ	○	○																
91			ナガバジャノヒゲ	○	○																
92			オオバジャノヒゲ	○	○																
93			ナルコユリ	○	○																
94			アマドロコ	○	○																
95			キチジョウソウ	○	○																
96			オモト	○	○																
97		ヤシ目	ヤシ科	マカラニ	○	○															
98			フェニックス	○	○																
99			シュロ	○	○																

表 4.2.1 工事前後の植物相の変化 (2/6)

No.	門名	亜門名	綱名	目名	科名	種名	工事前	工事後	選定基準										
									①	②	③	④	⑤						
100	種子植物門	被子植物亜門	単子葉類	ツユクサ目	ツユクサ科	ツユクサ	○	○											
101						ヤブミョウガ	○	○											
102						ノハカタカラクサ	○	○											
103						シヨウガ目	シヨウガ科	ミョウガ	○	○									
104						イネ目	ガマ科	ガマ	○	○									
105						イグサ科	スズメノヤリ	○	○										
106						カヤツリグサ科	メアオスグ	○	○										
107						ヒメカンスグ	○	○											
108						カサスグ	○	○											
109						ケスグ	○	○											
110						マスクサ	○	○											
111						ヒカグスグ	○	○											
112						ナキリスグ	○	○											
113						アオスグ	○	○											
114						ノグヌカスグ	○	○											
115						カンスグ	○	○											
116						アイノコシラスグ	○	○										CR	
117						ヤワラスグ	○	○											
118						ヒメクグ	○	○											
119						メリケンガヤツリ	○	○											
120						カヤツリグサ	○	○											
121						ハマスグ	○	○											
122						イネ科	メリケンカルカヤ	○	○										
123						コブナグサ	○	○											
124						カラスムギ	○	○											
125						ヤマカモジグサ	○	○											
126						コバンソウ	○	○											
127						ヒメコバンソウ	○	○											
128						イヌムギ	○	○											
129						スズメノチャビキ	○	○											
130						キツネガヤ	○	○											
131						ジュズダマ	○	○											
132						ギョウギシバ	○	○											
133						カモガヤ	○	○											
134						メヒシバ	○	○											
135						イヌビエ	○	○											
136						ヒメイヌビエ	○	○											
137						オヒシバ	○	○											
138						アオカモジグサ	○	○											
139						カモジグサ	○	○											
140						シナダレスズメガヤ	○	○											
141						カゼクサ	○	○											
142						コスズメガヤ	○	○											
143						ナルコビエ	○	○											
144						トボシガラ	○	○											
145						ドジョウツナギ	○	○											
146						ウシノシツペイ	○	○											
147						チガヤ	○	○											
148						ササガヤ	○	○											
149						ネズミムギ	○	○											
150						ホソムギ	○	○											
151						アシボソ	○	○											
152						オギ	○	○											
153						ススキ	○	○											
154						コチヂミササ	○	○											
155						ケチヂミササ	○	○											
156						ヌカキビ	○	○											
157						シマスズメノヒエ	○	○											
158						タチスズメノヒエ	○	○											
159						チカラシバ	○	○											
160						クサヨシ	○	○											
161						ヨシ	○	○											
162						ハチク	○	○											
163						マダケ	○	○											
164						アズマネザサ	○	○											
165						キボウシノ	○	○											
166						メダケ	○	○											
167						ミゾイチゴツナギ	○	○											
168						スズメノカタビラ	○	○											
169						ツルスズメノカタビラ	○	○											
170						イチゴツナギ	○	○											
171						オオスズメノカタビラ	○	○											
172						タマオオスズメノカタビラ	○	○											
173						ヒエガエリ	○	○											
174						オニウシノケグサ	○	○											
175						アキノエノコログサ	○	○											
176						エノコログサ	○	○											
177						セイバンモロコシ	○	○											
178						ネズミノオ	○	○											
179						ナギナタガヤ	○	○											
180						シバ	○	○											
181						コウライシバ	○	○											
182						クサノオウ	○	○											
183						ムラサキケマン	○	○											
184						ミヤマキケマン	○	○											
185						ナガミヒナゲシ	○	○											
186						ゴヨウアケビ	○	○											
187						アケビ	○	○											
188						ミツバアケビ	○	○											
189						アオツラフジ	○	○											
190						メギ	○	○											
191						ナンテン	○	○											
192						ニリンソウ	○	○											
193						センニンソウ	○	○											
194						ケキツネノボタン	○	○											
195						タガラシ	○	○											
196						キツネノボタン	○	○											
197						ヒメウス	○	○											
198						アキカラマツ	○	○											

表 4.2.1 工事前後の植物相の変化 (3/6)

No.	門名	亜門名	綱名	目名	科名	種名	工事前	工事後	選定基準										
									①	②	③	④	⑤						
199	種子植物門	被子植物亜門	真正双子葉類	ユキノシタ目	ユズリハ科	ヒメユズリハ	○	○											
200					ペンケイソウ科	コモチマンネングサ	○	○											
201				ブドウ目	ブドウ科	ノブドウ	○	○											
202						ヤブカラシ	○	○											
203						ツタ	○	○											
204						エビヅル	○	○											
205						マメ目	マメ科	ネムノキ	○	○									
206						イタチハギ	○	○											
207						ヤブマメ	○	○											
208						アレチヌスビトハギ	○	○											
209						カイコウズ	○	○											
210						ツルマメ	○	○											
211						ヤハズツウ	○	○											
212						メドハギ	○	○											
213						マルバハギ	○	○											
214						ネコハギ	○	○											
215						セイヨウミヤコグサ	○	○											
216						ミヤコグサ	○	○											
217						クズ	○	○											
218						タンキリマメ	○	○											
219						クスダマツメクサ	○	○											
220						コメツツメクサ	○	○											
221						ムラサキツメクサ	○	○											
222						シロツメクサ	○	○											
223						スズメノエンドウ	○	○											
224						キハスエンドウ	○	○											
225						カスマグサ	○	○											
226						ナンテンハギ	○	○											
227						フジ	○	○											
228						ナツフジ	○	○											
229						ツルグミ	○	○											
230						オオバグミ	○	○											
231						ナワシログミ	○	○											
232						アキグミ	○	○											
233						ニレ科	ケヤキ	○	○										
234						アサ科	ムクノキ	○	○										
235							エノキ	○	○										
236							カナムグラ	○	○										
237						クロ科	ヒメコウゾ	○	○										
238							クワクサ	○	○										
239							イスビワ	○	○										
240							イタビカズラ	○	○										
241							ヤマグワ	○	○										
242						イラクサ科	ハマヤブマオ	○	○										
243							カタバヤブマオ	○	○										
244							ヤブマオ	○	○										
245							カラムシ	○	○										
246							ラセイタソウ	○	○										
247							アオミズ	○	○										
248							イラクサ	○	○										
249						バラ科	キンミズヒキ	○	○										
250							サトザクラ	○	○										
251							オオシマザクラ	○	○										
252							ソメイヨシノ	○	○										
253							クサボケ	○	○										
254							ビワ	○	○										
255							ダイコンソウ	○	○										
256							コゴメウツギ	○	○										
257							イスザクラ	○	○										
258							ヘビイチゴ	○	○										
259							ヤブヘビイチゴ	○	○										
260							カマツカ	○	○										
261							シャリンバイ	○	○										
262							テリハノイバラ	○	○										
263							ノイバラ	○	○										
264							クサイチゴ	○	○										
265							モミジイチゴ	○	○										
266							ナワシロイチゴ	○	○										
267							カジイチゴ	○	○										
268							ワレモコウ	○	○										
269						ブナ目	ブナ科	クリ	○	○									
270								スタジイ	○	○									
271								マテバシイ	○	○									
272								アカガシ	○	○									
273								クスギ	○	○									
274								アラカシ	○	○									
275								シラカシ	○	○									
276								ウバメガシ	○	○									
277								コナラ	○	○									
278							カバノキ科	ヤシヤブシ	○	○									
279								ハンノキ	○	○									
280								オオバヤシヤブシ	○	○									
281								アカシデ	○	○									
282								イヌシデ	○	○									
283							ウリ目	ウリ科	アマチャヅル	○	○								
284									ニガウリ	○	○								
285									アレチウリ	○	○								
286									カラスウリ	○	○								
287							ニシキギ目	ニシキギ科	ツルウメモドキ	○	○								
288									ニシキギ	○	○								
289									マサキ	○	○								
290									ツルオオバマサキ	○	○								
291									マユミ	○	○								
292							カタバミ目	カタバミ科	カタバミ	○	○								
293									ムラサキカタバミ	○	○								
294									オッタチカタバミ	○	○								
295									オオキバナカタバミ	○	○								

表 4.2.1 工事前後の植物相の変化 (4/6)

No.	門名	亜門名	綱名	目名	科名	種名	工事前	工事後	選定基準							
									①	②	③	④	⑤			
296	種子植物門	被子植物亜門	真正双子葉類	キントラノオ目	トウダイグサ科	エノキグサ	○	○								
297						トウダイグサ	○	○								
298						タカトウダイ	○	○								
299						コニシキソウ	○	○								
300						ナツトウダイ	○	○								
301						アカメガシラ	○	○								
302						ナンキンハゼ	○	○								
303						コミカンソウ科	○	○								
304						ヤナギ科	○	○								
305						スミレ科	○	○								
306					フウロソウ目	フウロソウ科	アメリカフウロ	○	○							
307							ゲンノショウコ	○	○							
308					フトモモ目	ミソハギ科	サルスベリ	○	○							
309							アカバナ科	ミズタマソウ	○	○						
310						チョウジタデ	○	○								
311						メマツヨイグサ	○	○								
312						コマツヨイグサ	○	○								
313						ユウダショウ	○	○								
314						ミツバウツギ目	ミツバウツギ科	ゴズイ	○	○						
315								キブシ科	キブシ	○	○					
316						ムクロジ目	ウルシ科	ハチジョウキブシ	○	○						
317								ヌルデ	○	○						
318					ツタウルシ			○	○							
319					ハゼノキ		○	○								
320					ムクロジ科		オオモミジ	○	○							
321							イロハモミジ	○	○							
322					ミカン科		コクサキ	○	○							
323							カラスザンショウ	○	○							
324							ザンショウ	○	○							
325					ニガキ科		ニガキ	○	○							
326					アオイ目	ジンチョウゲ科	オニシバリ	○	○							
327					アブラナ目	アブラナ科	カラシナ	○	○							
328							セイヨウアブラナ	○	○							
329							ナズナ	○	○							
330							ミチタネツケバナ	○	○							
331							タネツケバナ	○	○							
332							オランダガラシ	○	○							
333							ショカツサイ	○	○							
334							ダイコン	○	○							
335							ナデシコ目	タデ科	イタドリ	○	○					
336									ヒメツルソバ	○	○					
337					ミズヒキ	○			○							
338					シロバナサクラタデ	○			○							
339					オオイヌタデ	○			○							
340					イヌタデ	○			○							
341					ボントクタデ	○			○							
342					ママコノシリヌグイ	○			○							
343					ミヅツバ	○			○							
344					スイバ	○			○							
345					ヒメスイバ	○	○									
346					アレチギンギシ	○	○									
347					ナガバギンギシ	○	○									
348					ギンギシ	○	○									
349					エフノギンギシ	○	○									
350					ナデシコ科	ミミナグサ	○	○								
351						オランダミミナグサ	○	○								
352						ツメクサ	○	○								
353						ムシトリナデシコ	○	○								
354						マンテマ	○	○								
355						ウシハコベ	○	○								
356						コハコベ	○	○								
357						ミドリハコベ	○	○								
358						ノミノフスマ	○	○								
359						ヒユ科	イノコヅチ	○	○							
360					ヒナタイノコヅチ	○	○									
361					イヌビユ	○	○									
362					シロザ	○	○									
363					アカザ	○	○									
364					アリタソウ	○	○									
365					ハマミズナ科	ツルナ	○	○								
366					ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	○	○								
367					ザクロソウ科	ザクロソウ	○	○								
368					スベリヒユ科	スベリヒユ	○	○								
369					ミズキ目	ミズキ科	ミズキ	○	○							
370						クマノミズキ	○	○								
371					ツツジ目	アジサイ科	ウツギ	○	○							
372							マルバウツギ	○	○							
373						サカキ科	ハマヒサカキ	○	○							
374							ヒサカキ	○	○							
375							モッコク	○	○							
376						カキノキ科	カキノキ	○	○							
377							マンリョウ	○	○							
378						サクラソウ科	ヤブコウジ	○	○							
379							オカトラノオ	○	○							
380							ユナシバ	○	○							
381					ツバキ科	ヤブツバキ	○	○								
382						チャノキ	○	○								
383					エゴノキ科	エゴノキ	○	○								
384					ツツジ科	アセビ	○	○								
385						ヤマツツジ	○	○								
386					アオキ目	アオキ科	アオキ	○	○							
387					リンドウ目	アカネ科	ヤエムグラ	○	○							
388							ハクソカズラ	○	○							
389							アカネ	○	○							
390						キョウチクトウ科	フウセントウワタ	○	○							
391							ガガイモ	○	○							
392							キョウチクトウ	○	○							
393					テイカカズラ	○	○									
394					ツルニチニチソウ	○	○									

表 4.2.1 工事前後の植物相の変化 (6/6)

No.	門名	亜門名	綱名	目名	科名	種名	工事前	工事後	選定基準									
									①	②	③	④	⑤					
494	種子植物門	被子植物亜門	真双子葉類	セリ目	ウコギ科	ヤツデ	○	○										
495						カナリーキツタ												
496						キツタ												
497						ノチドメ												
498						オオチドメ												
499						チドメグサ												
500						ハリギリ												
501						アスタバ												
502						シシウド												
503						ツボクサ												
504						ミツバ												
505						マツバゼリ												
506						セリ												
507						ヤブニンジン												
508					ウマノミツバ													
509					ヤブジラミ													
510					オヤブジラミ													
511					ニフトコ													
512					ガマズミ													
513					ヨバノガマズミ													
514					サンゴジュ													
515					ウグイスカグラ													
516					スイカズラ													
517					ハコネウツギ													
518					ニシキウツギ													
合計 2門 3綱 48目 108科 518種							385種	381種	0種	0種	1種	3種	3種					

注1) 科名・種名・学名・配列は原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト「令和6年度生物リスト」』(国土交通省河川環境データベース、令和6年11月)に従った。

注2) 重要種選定基準及び評価区分は以下のとおりである。

- ① 「文化財保護法」(昭和25年、法律214号)における天然記念物及び特別天然記念物
 特天：国指定特別天然記念物 国：国指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成3年、法律75号)における国内希少野生動植物及び国際希少野生動植物
 国内：国内希少野生動植物種特定：特定国内希少野生動植物種緊急：緊急指定種
- ③ 「環境省レッドリスト2020の公表について」(環境省、令和2年3月)の掲載種
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧
 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ 「神奈川県レッドデータブック2022植物編」(神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館編、令和4年3月)の掲載種
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧I類 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足、要：要注意、減：減少種、希：希少種、注：注目種、不：不明種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑤ 「佐島の丘開発事業環境影響予測評価書」(京浜急行電鉄株式会社、平成12年12月)において注目すべき種とされた種
 エビネ、コ克蘭、ヨメナ

表 4.2.2 工事前後の植物相の変化（適潤～湿生植物）（1/2）

No.	目名	科名	種名	調査時期		選定基準				
				工事前	工事完了後	①	②	③	④	⑤
1	ゼンマイ目	ゼンマイ科	ゼンマイ	○	○					
2	ウラボシ目	コバノイシカグマ科	フモトシダ	○	○					
3		イノモトソウ科	オオバノイノモトソウ	○	○					
4			ハチジョウシダ		○					EN
5			マツサカシダ		○					
6		ヒメシダ科	ミドリヒメワラビ		○					
7			ホシダ	○	○					
8			ミゾシダ	○	○					
9		シンガシラ科	コモチシダ	○	○					
10		メシダ科	イヌワラビ	○	○					
11		オシダ科	リョウメンシダ	○	○					
12			ナガバヤブソテツ		○					
13			オニヤブソテツ	○	○					
14			テリハヤブソテツ		○					
15			ヤマイタチシダ	○	○					
16			ベニシダ	○	○					
17			ベニオオイタチシダ		○					
18			キンキイタチシダ	○	○					
19			クマワラビ		○					
20			アイノコクマワラビ		○					
21			オクマワラビ	○	○					
22			アスカイノデ	○	○					
23			アイアスカイノデ	○						
24			イノデ	○						
25		コショウ目	ドクダミ科	ドクダミ	○	○				
26	コショウ科		フウトウカズラ	○	○					
27	クスノキ目	クスノキ科	タブノキ	○	○					
28			シロダモ	○	○					
29	オモダカ目	サトイモ科	マムシグサ	○						
30			ウラシマソウ	○	○					
31	ユリ目	イヌサフラン科	ハウチャクソウ	○						
32			チゴユリ	○	○					
33		ユリ科	ヤマユリ	○	○					
34			ホトトギス		○					
35	クサスギカズラ目	ラン科	エビネ	○	○			NT	NT	●
36			サイハイラン	○						
37			コクラシ	○	○					
38		ヒガンバナ科	キツネノカミソリ	○						
39		クサスギカズラ科	ヤブラン	○	○					
40			ノシラン		○					
41			ナガバジャノヒゲ	○	○					
42	ナルコユリ		○	○						
43	アマドコロ		○	○						
44		キチジョウソウ	○							
45	ツユクサ目	ツユクサ科	ヤブミョウガ	○	○					
46	ショウガ目	ショウガ科	ミョウガ	○	○					
47	イネ目	カヤツリグサ科	カンスゲ	○						
48		イネ科	ドジョウツナギ	○	○					
49		キンボウゲ科	ニリンソウ		○					
50			キツネノボタン	○						

表 4.2.2 工事前後の植物相の変化（適潤～湿生植物）（2/2）

No.	目名	科名	種名	調査時期		選定基準				
				工事前	工事完了後	①	②	③	④	⑤
51	バラ目	ニレ科	ケヤキ	○	○					
52		アサ科	ムクノキ	○	○					
53			エノキ	○	○					
54		クワ科	ヤマグワ	○	○					
55		イラクサ科	アオミズ		○					
56			イラクサ		○					
57		バラ科	ダイコンソウ		○					
58	ブナ目	カバノキ科	ハンノキ		○					
59	フトモモ目	アカバナ科	ミズタマソウ	○						
60	ムクロジ目	ミカン科	コクサギ		○					
61	ナデシコ目	タデ科	ミズヒキ	○	○					
62			ミゾソバ	○	○					
63	ミズキ目	ミズキ科	ミズキ	○	○					
64			クマノミズキ		○					
65	アオキ目	アオキ科	アオキ	○	○					
66	シソ目	ハエドクソウ科	ナガバハエドクソウ		○					
67	キク目	キク科	シロヨメナ	○	○					
68	セリ目	ウコギ科	ウド	○						
69			ヤマウコギ		○					
70		セリ科	ヤブニンジン	○	○					
71			ウマノミツバ	○						
合計 20目 36科 71種				52種	59種	0種	0種	1種	2種	2種

注1) 科名・種名・学名・配列は原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト「令和6年度生物リスト」』（国土交通省河川環境データベース、令和6年11月）に従った。

注2) 重要種選定基準及び評価区分は以下のとおりである。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年、法律214号）における天然記念物及び特別天然記念物
 特天：国指定特別天然記念物 天：国指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成3年、法律75号）における国内希少野生動植物及び国際希少野生動植物
 国内：国内希少野生動植物種特定：特定国内希少野生動植物種緊急：緊急指定種
- ③ 「環境省レッドリスト2020の公表について」（環境省、令和2年3月）の掲載種
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ 「神奈川県レッドデータブック2022植物編」（神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館編、令和4年3月）の掲載種
 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足、要：要注意、減：減少種、希：希少種、注：注目種、不：不明種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑤ 「佐島の丘開発事業環境影響予測評価書」（京浜急行電鉄株式会社、平成12年12月）において注目すべき種とされた種
 エビネ、コ克蘭、ヨメナ

表 4.2.3 工事前後の植物相の変化（林縁植物）（1/2）

No.	目名	科名	種名	調査時期		選定基準				
				工事前	工事完了後	①	②	③	④	⑤
1	フサシダ目	カニクサ科	カニクサ	○	○					
2	コショウ目	ウマノスズクサ科	オオバウマノスズクサ	○	○					
3	ヤマノイモ目	ヤマノイモ科	ヤマノイモ	○	○					
4			オニドコロ	○	○					
5	ユリ目	サルトリイバラ科	サルトリイバラ	○	○					
6			シオデ	○	○					
7	イネ目	イネ科	アズマネザサ	○	○					
8			キボウシノ		○					
9			メダケ	○	○					
10	キンポウゲ目	アケビ科	ゴヨウアケビ	○						
11			アケビ	○	○					
12			ミツバアケビ	○	○					
13		ツツラフジ科	アオツツラフジ	○	○					
14		キンポウゲ科	センニンソウ	○	○					
15	ブドウ目	ブドウ科	ノブドウ	○	○					
16			ヤブカラシ	○	○					
17			エビヅル	○	○					
18	マメ目	マメ科	ヤブマメ	○	○					
19			クズ	○	○					
20			フジ	○	○					
21			ナツフジ	○						
22	バラ目	グミ科	ツルグミ	○						
23			アキグミ	○	○					
24		アサ科	カナムグラ	○	○					
25		クワ科	ヒメコウゾ		○					
26			イスビワ	○	○					
27			ヤマグワ	○	○					
28		バラ科	コゴメウツギ	○	○					
29			ノイバラ	○	○					
30			クサイチゴ	○	○					
31			モミジイチゴ	○	○					
32			ナワシロイチゴ	○	○					
33			カジイチゴ	○						
34	ブナ目	カバノキ科	オオバヤシャブシ		○					
35	ウリ目	ウリ科	カラスウリ	○	○					
36	ニシキギ目	ニシキギ科	ツルウメモドキ	○	○					
37			マユミ	○	○					
38	キントラノオ目	トウダイグサ科	アカメガシワ	○	○					
39	ミツバウツギ目	ミツバウツギ科	ゴンズイ	○	○					
40		キブシ科	キブシ	○						
41			ハチジョウキブシ		○					
42	ムクロジ目	ウルシ科	ヌルデ	○	○					
43			カラスザンショウ	○	○					
44	ミズキ目	アジサイ科	ウツギ	○	○					
45			マルバウツギ	○	○					
46	リンドウ目	アカネ科	ヘクソカズラ	○	○					
47	ナス目	ナス科	クコ	○	○					
48			ヒヨドリジョウゴ	○	○					
49	シソ目	モクセイ科	イボタノキ	○						
50			オオバイボタ		○					
51		シソ科	ムラサキシキブ	○	○					
52			クサギ	○	○					

表 4.2.3 工事前後の植物相の変化（林縁植物）（2/2）

No.	目名	科名	種名	調査時期		選定基準				
				工事前	工事完了後	①	②	③	④	⑤
53	セリ目	ウコギ科	ヤマウコギ		○					
54	マツムシソウ目	ガマズミ科	ニワトコ	○	○					
55			ガマズミ	○	○					
56		スイカズラ科	スイカズラ	○	○					
57			ハコネウツギ	○	○					
58			ニシキウツギ	○						
合計 21目 29科 58種				52種	51種	0種	0種	0種	0種	0種

注1) 科名・種名・学名・配列は原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト「令和6年度生物リスト」』（国土交通省河川環境データベース、令和6年11月）に従った。

注2) 重要種選定基準及び評価区分は以下のとおりである。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年、法律214号）における天然記念物及び特別天然記念物
特天：国指定特別天然記念物 天：国指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成3年、法律75号）における国内希少野生動植物及び国際希少野生動植物
国内：国内希少野生動植物種特定：特定国内希少野生動植物種緊急：緊急指定種
- ③ 「環境省レッドリスト2020の公表について」（環境省、令和2年3月）の掲載種
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ 「神奈川県レッドデータブック2022植物編」（神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館編、令和4年3月）の掲載種
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足、要：要注意、減：減少種、希：希少種、注：注目種、不：不明種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑤ 「佐島の丘開発事業環境影響予測評価書」（京浜急行電鉄株式会社、平成12年12月）において注目すべき種とされた種
エビネ、コ克蘭、ヨメナ

(2) 植生

工事前後の主要な植生の変化は表 4.2.4 に示すとおりである。

工事完了後の調査結果と平成 7～11 年度に実施された工事前の調査結果から、工事前後の植生の変化について以下のとおり検証した。なお工事前の比較対象は、事業実施区域の植生調査結果とする。

工事前に実施された平成 7～11 年の調査で 19 単位の植物群落が区分されている。今回の調査では 11 単位の植物群落が区分された。

重要な植物群落は、工事前には境影響予測評価書で注目すべき群落とされているイノデータブノキ群集、ヤブコウジースダジイ群集、タチヤナギ群落、アカガシ群落、マテバシイ群落が確認されたが、このうち、工事完了後は主要な植物群落としてイノデータブノキ群集、タチヤナギ群落及びマテバシイ群落の 3 群落を確認された。また、主要な植物群落ではないものの、ヤブコウジースダジイ群集は「第 1 章 植物（注目すべき植物種、植物群落）」に示したとおり保存緑地内に移植しており、移植後 19 年が経過したが、樹高の伸長が見られ、生育は良好と思われる。アカガシ群落もエビネ及びコ克蘭の移植箇所になっており、保存緑地の一部としてそのまま保存している。

確認された 11 群落のうち、イノデータブノキ群集、マテバシイ群落及びオニシバリーコナラ群集は、工事前から成立していた林分が持続したものである。アカメガシワーカーラスザンショウ群落、マダケ植林及びススキ群落は、工事前の調査では確認されておらず、調査実施以降に植生遷移により新たに成立したものと考えられる。タチヤナギ群落、常緑広葉樹植林、ヨシ群落については環境保全対策の一環として移植・創出されたものである。

以上より、工事完了後においては保存緑地、回復森林及び回復緑地の樹林や親水公園の湿地を中心として植生の多様性が保全・創出されていることから、環境保全対策は適切であったと考えられる。

表 4.2.4 工事前後の主要な植生の変化

植生単位	工事前	工事後	選定基準			
			①	②	③	
森林植生	イノデータブノキ群集	○	○		●	
	ヤブコウジースダジイ群集	○	注1		●	
	タチヤナギ群落	○	○注2		●	
	アカガシ群落	○	注3		●	
	マテバシイ群落	○	○		●	
	オニシバリコナラ群集	○	○			
	アカメガシワカラスザンショウ群落		○			
	クサイチゴータラノキ群集	○				
	マダケ植林		○			
	常緑広葉樹植林		○注4			
	モウソウチク林	○				
	メダケ群落	○				
	ラセイトソーヤシャブシ群落	○				
	ネズミモチマサキ群落	○				
	草地植生及び耕作地	カサスガ群集	○			
		セキショウ群集	○			
ススキ群落			○			
アズマネザサススキ群集		○				
ハンゲショウ群落		○				
セリークサヨシ群集		○				
ガマヨシ群落		○				
ヨシ群落			○注5			
ヒメムカシヨモギオオアレチノギク群落		○				
カラスビシャクニシキノウ群集		○				
合計	19群落	11群落	0群落	0群落	3群落	

注1) ヤブコウジースダジイ群集は、主要な群落ではないものの、保存緑地の一部に移植した個体がオニシバリコナラ群集内に残存している。

注2) タチヤナギ群落は、改変された丸山地区の谷戸から低木を親水公園の湿地部に移植しており、主要な群落として創出されている。

注3) アカガシ群落は、主要な群落ではないものの、保存緑地の一部に保存した個体がオニシバリコナラ群集内に残存している。

注4) 常緑広葉樹植林は、ポット苗の移植により主要な群落として創出されている。

注5) ヨシ群落は、改変された丸山地区の谷戸から種子を含む湿性土を浸水公園の湿地部に移植しており、主要な群落として創出されている。

注6) 重要種選定基準及び評価区分は以下のとおりである。

① A: 原生林もしくはそれに近い自然林

B: 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落又は個体群

C: 比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群

D: 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの

E: 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの

F: 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの

G: 乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群

H: その他学術上重要な植物群落又は個体群

② 4: 緊急に対策必要、3: 対策必要、2: 破壊の危機、1: 要注意

③ 注目すべき植物群落

2) 動物

(1) 哺乳類

工事前後の哺乳類相の変化は表 4.2.5 に示すとおりである。

工事完了後の調査結果と平成 8 年度及び平成 10 年度に実施された工事前の調査結果から、工事前後の哺乳類相の変化について以下のとおり検証した。

工事前に実施された平成 8 年度及び平成 10 年度の調査でヒミズ、アカネズミ、タヌキ及びホンドイタチの 3 目 4 科 4 種の哺乳類が確認されている。工事完了後の調査ではアズマモグラ、アブラコウモリ属、ヒナコウモリ科、ノウサギ、クリハラリス、アカネズミ、アライグマ、タヌキ及びハクビシンの 5 目 8 科 8 種が確認され、確認種数は増加していた。

重要種については、工事前にはタヌキ及びホンドイタチの 2 種が確認されており、環境影響予測評価書で注目すべき種とされている。工事完了後は、タヌキは確認されたが、ホンドイタチは確認されなかった。ホンドイタチは本州では普通見られる種であり、餌動物となるアカネズミや昆虫も確認されていることから、今後確認される可能性はある。

工事前はアカネズミが通年で 9 個体捕獲されたほかは、各種ともに 1~2 例のみで、種数及び確認例数ともに少なく、調査範囲に生息する哺乳類はもともと多くはなかったと考えられる。確認種数は増加したが、各種の確認例数は多くなく、工事前と同様に生息数は多くないものと考えられるが、アカネズミをはじめとした小型哺乳類のほか、食物連鎖の上位にあたるタヌキの生息も確認され、周辺環境を含めた広い地域を活動域として利用し、調査範囲はそれぞれの行動圏の一部としているものと考えられる。

以上より、工事完了後においては保存緑地、回復森林及び回復緑地の樹林や親水公園の湿地を中心として哺乳類の生息環境が保全・創出されていることから、環境保全対策は適切であったと考えられる。

表 4.2.5 工事前後の哺乳類相の変化

No	目名	科名	種名	工事前	工事完了後	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
1	モグラ	モグラ	ヒミズ	○						
2			アズマモグラ		○					
3	コウモリ	ヒナコウモリ	アブラコウモリ属		○					
-			ヒナコウモリ科		○					
4	ウサギ	ウサギ	ノウサギ		○					
5	ネズミ	リス	クリハラリス		○					
6		ネズミ	アカネズミ	○	○					
7	ネコ	アライグマ	アライグマ		○					
8		イヌ	タヌキ	○	○					●
9		イタチ	ホンDOIタチ	○						●
10		ジャコウネコ	ハクビシン		○					
合計 5目 9科 10種				4種	8種	0種	0種	0種	0種	2種

注1) 科名・種名・学名・配列は原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト「令和6年度生物リスト」』（国土交通省河川環境データベース、令和6年11月）に従った。

注2) 重要種選定基準及び評価区分は以下のとおりである。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年、法律214号）における天然記念物及び特別天然記念物
特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成3年、法律75号）における国内希少野生動植物及び国際希少野生動植物
国内：国内希少野生動植物種 特定：特定国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
- ③ 「環境省レッドリスト2020の公表について」（環境省、令和2年3月）の掲載種
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧
DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館、平成18年7月）の掲載種
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧I類 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類
VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足、要：要注意、減：減少種、希：希少種、注：注目種、不：不明種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑤ 「佐島の丘開発事業環境影響予測評価書」（京浜急行電鉄株式会社、平成12年12月）において注目すべき種とされた種
タヌキ、ホンDOIタチ

(2) 鳥類

工事前後の鳥類相の変化は図 4.2.2 及び表 4.2.6 に示すとおりである。

工事完了後の調査結果と平成 8～10 年度に実施された工事前の調査結果から、工事前後の鳥類相の変化について以下のとおり検証した。

工事前に実施された平成 8～10 年度の調査で 11 目 25 科 58 種の鳥類が確認されている。ただし、工事前に実施されたこのうちウミウ、イソシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ウミネコ及びイソヒヨドリの 7 種は、周辺地域の海岸部のみで確認されたものであるため、実際に調査範囲内で確認されたのは 51 種である。工事完了後の調査では工事完了後の調査では 12 目 29 科 49 種が確認され、確認種数は概ね同程度であった。

重要種については、工事前には 10 目 16 科 22 種、工事完了後は 8 目 15 科 19 種が確認されており、概ね同程度であった。環境影響予測評価書で注目すべき種とされている種のうち、アオサギ、サシバ、ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、カワセミ、アオゲラ及びキビタキは工事完了後も確認された。ウミウ、オオタカ及びツツドリは確認されなかったが、ウミウは海辺に生息する鳥類で工前は佐島漁港で確認されているが、工事完了後は海辺が調査範囲に入っていなかったためと考えられる。オオタカは、工前は通過個体が 1 回確認されたのみだったため、偶発的な要因が大きいと考えられる。ツツドリは周辺には生息環境となる樹林が存在するため、今後確認される可能性はあると考えられる。

工事完了後も樹林から樹林周辺に生息する種、草地から裸地に生息する種、水辺性の種、人家周辺に生息する種まで比較的多様な種が確認されている。水辺に生息するアオサギやダイサギ等のサギ類のほか、カワセミも親水公園の池や周辺で確認されており、工事前後で確認種数に大きな変化はみられない。

以上より、工事完了後においては保存緑地、回復森林及び回復緑地の樹林や親水公園の湿地を中心として鳥類の生息環境が保全・創出されていることから、環境保全対策は適切であったと考えられる。

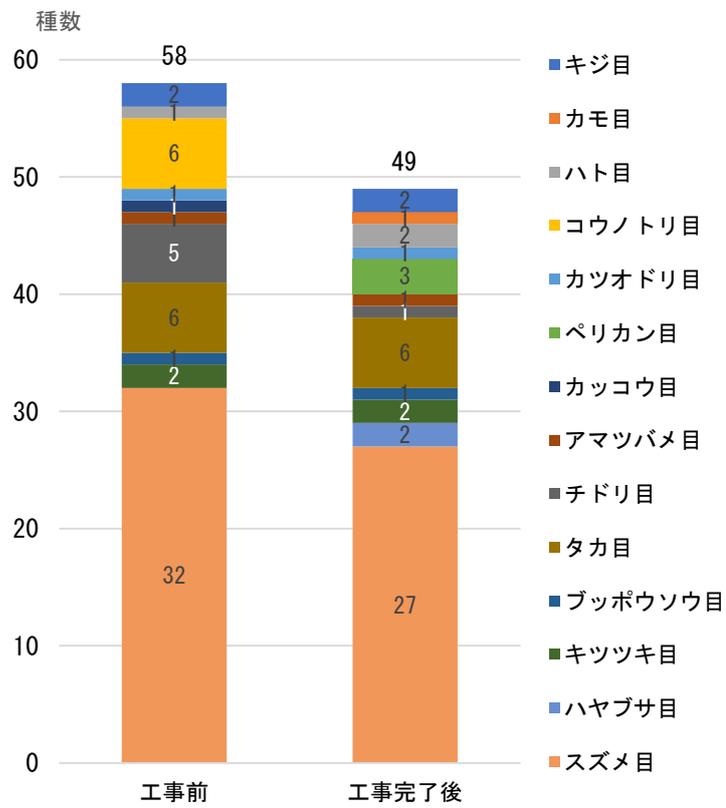


図 4.2.2 工事前後の鳥類相の変化

表 4.2.6 工事前後の鳥類相の変化 (1/2)

No	目名	科名	種名	渡り 区分	工事前	工事 完了後	選定基準					
							①	②	③	④		⑤
										a	b	
1	キジ	キジ	コジュケイ	留鳥	○	○						
2			キジ	留鳥	○	○						
3	カモ	カモ	カルガモ	留鳥		○						
4	ハト	ハト	カワラバト(ドバト)	留鳥		○						
5			キジバト	留鳥	○	○						
6	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥		○						
7			ウミウ	冬鳥	○							●
8	ペリカン	サギ	ゴイサギ	留鳥	○							
9			アオサギ	留鳥	○	○						●
10			ダイサギ	留鳥	○	○						
11			チュウサギ	旅鳥	○							
12			コサギ	留鳥	○	○						
13			クロサギ	留鳥	○							
14	カッコウ	カッコウ	ツツドリ	旅鳥	○							●
15	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ	旅鳥	○							
16			ヒメアマツバメ	留鳥		○				減		
17	チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥		○				注		
18		シギ	イソシギ	冬鳥	○							
19		カモメ	ユリカモメ	冬鳥	○							
20			ウミネコ	冬鳥	○							
21			セグロカモメ	冬鳥	○							
22			オオセグロカモメ	冬鳥	○							
23	タカ	ミサゴ	ミサゴ	留鳥		○		NT	VU	NT		
24		タカ	ハチクマ	夏鳥		○		NT	CR+EN			
25			トビ	留鳥	○	○						
26			ハイタカ	冬鳥		○		NT	DD	希		
27			オオタカ	冬鳥	○							●
28			サシバ	夏鳥	○	○		VU	CR+EN			●
29			ノスリ	冬鳥	○	○			VU	希		●
30	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	留鳥	○	○						●
31	キツツキ	キツツキ	コゲラ	留鳥	○	○						
32			アオゲラ	留鳥	○	○						●
33	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	留鳥	○	○						●
34			ハヤブサ	冬鳥	○	○		国内	VU	CR+EN	希	●
35	スズメ	モズ	モズ	留鳥	○	○				減		
36		カラス	カケス	冬鳥	○							
37			ハシボソガラス	留鳥	○	○						
38			ハシブトガラス	留鳥	○	○						
39		シジュウカラ	ヤマガラ	留鳥	○	○						
40			シジュウカラ	留鳥	○	○						
41		ヒバリ	ヒバリ	留鳥		○				減		
42		ツバメ	ツバメ	夏鳥	○	○				減		
43			コシアカツバメ	夏鳥		○				減		
44			イワツバメ	夏鳥	○							
45		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○						
46		ウグイス	ウグイス	留鳥	○	○						
47		エナガ	エナガ	留鳥	○	○						
48		チメドリ	ガビチョウ	留鳥		○						
49		メジロ	メジロ	留鳥	○	○						
50		ヨシキリ	オオヨシキリ	旅鳥	○							
51		セッカ	セッカ	留鳥		○				減	減	
52		ムクドリ	ムクドリ	留鳥	○	○						
53	スズメ	ヒタキ	シロハラ	冬鳥	○	○						
54			アカハラ	冬鳥	○	○				減注2)		
55			ツグミ	冬鳥	○	○						
56			ルリビタキ	冬鳥	○							
57			ジョウビタキ	冬鳥	○	○						
58			イソヒヨドリ	留鳥	○	○						
59			キビタキ	夏鳥	○	○				減		●
60		スズメ	スズメ	留鳥	○	○						
61		セキレイ	キセキレイ	留鳥	○							
62			ハクセキレイ	留鳥	○	○						
63			セグロセキレイ	留鳥	○							
64			ビンズイ	冬鳥	○							
65			タヒバリ	冬鳥	○							

表 4.2.6 工事前後の鳥類相の変化 (2/2)

No	目名	科名	種名	渡り 区分	工事前	工事 完了後	選定基準						
							①	②	③	④		⑤	
										a	b		
66	スズメ	アトリ	カワラヒワ	留鳥	○	○					減		
67			シメ	冬鳥	○	○							
68		ホオジロ	ホオジロ	留鳥	○	○							
69			カシラダカ	冬鳥	○								
70			アオジ	冬鳥	○	○					VI ^{注2)}		
合計 13目 33科 70種				-	58種	49種	0種	1種	5種	17種	5種	11種	

注1) 科名・種名・学名・配列は原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト「令和6年度生物リスト」』（国土交通省河川環境データベース、令和6年11月）に従った。

注2) 重要種選定基準の評価区分は以下のとおりである。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年、法律214号）における天然記念物及び特別天然記念物
特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成3年、法律75号）における国内希少野生動植物及び国際希少野生動植物
国内：国内希少野生動植物種 特定：特定国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
- ③ 「環境省レッドリスト2020の公表について」（環境省、令和2年3月）の掲載種
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類
NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館、平成18年7月）の掲載種
a：繁殖期、b：非繁殖期
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧I類 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類
VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足、要：要注意、減：減少種、希：希少種、
注：注目種、不：不明種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑤ 「佐島の丘開発事業環境影響予測評価書」（京浜急行電鉄株式会社、平成12年12月）において注目すべき種とされた種
ウミウ、アオサギ、オオタカ、サシバ、ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、ツツドリ、カワセミ、
アオゲラ、キビタキ

注3) 確認時期が非繁殖期の冬季であるため、繁殖期の基準は適用されないが、参考情報として記載した。したがって、確認種数には計数されていない。

(3) 両生類・爬虫類

工事前後の両生類相の変化は表 4.2.7、爬虫類相の変化は表 4.2.8 に示すとおりである。

工事完了後の調査結果と平成 8～9 年度及び 11 年度に実施された工事前の調査結果から、工事前後の両生類・爬虫類相の変化について以下のとおり検証した。

工事前に実施された平成 8～9 年度及び 11 年度の調査で 1 目 3 科 4 種の両生類、1 目 4 科 6 種の爬虫類が確認されている。工事完了後の調査では、1 目 3 科 3 種の両生類、2 目 6 科 6 種の爬虫類が確認されており、確認種数は概ね同程度であった。

重要種については、工事前の両生類はニホンアマガエル、ヤマアカガエル及びシュレーゲルアオガエルの 3 種、爬虫類はヒガシニホントカゲ、ジムグリ及びニホンマムシの 3 種が確認されており、工事完了後の両生類はニホンアマガエル、ヤマアカガエル及びシュレーゲルアオガエルの 3 種、爬虫類はヒガシニホントカゲ、ヒバカリ及びニホンマムシの 3 種が確認されており、種数は同じであった。環境影響予測評価書で注目すべき種とされている種のうち、シュレーゲルアオガエル、ヒガシニホントカゲ及びニホンマムシは工事完了後も確認された。ジムグリは確認されなかったが、本種は物陰に隠れやすいため偶発的な要因が大きいと考えられる。

工事前に実施された両生類は谷戸の湿地や水域でカエル類が多く確認されており、爬虫類は主に草地や樹林内等で確認されていたものの、確認例は多くなかった。ヘビ類はシマヘビ、ジムグリ、アオダイショウ及びニホンマムシが確認されていた。工事完了後の調査では、両生類では、工事完了後も残存する調査範囲東部の池でヤマアカガエルの幼生及びシュレーゲルアオガエルの鳴き声が、西部の湿地でシュレーゲルアオガエルの鳴き声が確認され、カエル類の繁殖地として利用されているものと考えられる。一方で、事業実施に伴い創出された親水公園の池や湿地では上記 2 種は確認されず、ニホンアマガエルの鳴き声が記録されたのみであったが、今後、親水公園の湿地にもシュレーゲルアオガエル及びヤマアカガエルが進出してくれば、それらの生息地として利用される可能性はある。なお、工事完了後の調査ではニホンアカガエルが確認されなかった。また、トウキョウサンショウウオの卵のうは工事前と工事完了後のいずれも確認されなかった。

爬虫類では、ミシシippiaカミミガメ、ニホンヤモリ及びヒバカリが新たに確認された。ヘビ類の確認種は減少したものの、ヒガシニホントカゲの確認例が工事前に比較して増加しており、個体数は増加している可能性がある。本種は事業実施に伴って創出された公園でも確認されており、事業区域内にも徐々に進出しているようである。ニホンヤモリは工事前には記録されていないが、確認地点は既存の集落に隣接しており事業による影響は小さいと考えられることから、工前から生

息していた可能性がある。親水公園の池ではミシシippアカミミガメが確認されたが、本種は外来種で、公園の池は事業実施に伴って創出された環境であるため、人為的な逸出個体が生息しているものと考えられる。

以上より、工事完了後においては保存緑地、回復森林及び回復緑地の樹林や親水公園の湿地を中心として両生類・爬虫類の生息環境が保全・創出されていることから、環境保全対策は適切であったと考えられる。

表 4.2.7 工事前後の両生類相の変化

No	目名	科名	種名	工事前	工事完了後	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
1	無尾	アマガエル	ニホンアマガエル	○	○					●
2		アカガエル	ニホンアカガエル	○						
3			ヤマアカガエル	○	○					●
4			トウキョウダルマガエル							
5		アオガエル	シュレーゲルアオガエル	○	○				要	●
合計 1目 3科 5種				4種	3種	0種	0種	0種	1種	3種

注1) 科名・種名・学名・配列は原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト「令和6年度生物リスト」』（国土交通省河川環境データベース、令和6年11月）に従った。

注2) 重要種選定基準及び評価区分は以下のとおりである。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年、法律214号）における天然記念物及び特別天然記念物
特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成3年、法律75号）における国内希少野生動植物及び国際希少野生動植物
国内：国内希少野生動植物種 特定：特定国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
- ③ 「環境省レッドリスト2020の公表について」（環境省、令和2年3月）の掲載種
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧
DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館、平成18年7月）の掲載種
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧I類 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類
VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足、要：要注意、減：減少種、希：希少種、注：注目種、不：不明種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑤ 「佐島の丘開発事業環境影響予測評価書」（京浜急行電鉄株式会社、平成12年12月）において注目すべき種とされた種
シュレーゲルアオガエル、その他のカエル類

表 4.2.8 工事前後の爬虫類相の変化

No	目名	科名	種名	工事前	工事完了後	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
1	カメ 有鱗	ヌマガメ	ミシシippアカミミガメ		○					
2		ヤモリ	ニホンヤモリ		○					
3		トカゲ	ヒガシニホントカゲ	○	○				要	●
4		カナヘビ	ニホンカナヘビ	○	○					
5		ナミヘビ	アオダイショウ		○					
8			シマヘビ		○					
6			ジムグリ		○					●
7			ヒバカリ			○				NT
9		クサリヘビ	ニホンマムシ		○	○			要	●
合計 2目 6科 9種				6種	6種	0種	0種	0種	3種	3種

注1) 科名・種名・学名・配列は原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト「令和6年度生物リスト」』（国土交通省河川環境データベース、令和6年11月）に従った。

注2) 重要種選定基準及び評価区分は以下のとおりである。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年、法律214号）における天然記念物及び特別天然記念物
特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成3年、法律75号）における国内希少野生動植物及び国際希少野生動植物
国内：国内希少野生動植物種 特定：特定国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
- ③ 「環境省レッドリスト2020の公表について」（環境省、令和2年3月）の掲載種
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧
DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館、平成18年7月）の掲載種
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧I類 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類
VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足、要：要注意、減：減少種、希：希少種、注：注目種、不：不明種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑤ 「佐島の丘開発事業環境影響予測評価書」（京浜急行電鉄株式会社、平成12年12月）において注目すべき種とされた種
ニホントカゲ（従来のニホントカゲは、現在はニホントカゲとヒガシニホントカゲに分類が分けられており、分布情報に従ってヒガシニホントカゲとした。）、ジムグリ、ニホンマムシ

(4) 昆虫類

工事前後の昆虫類相の変化は図 4.2.3 及び表 4.2.9 に示すとおりである。

工事完了後の調査結果と平成 8 年度及び平成 10 年度に実施された工事前の調査結果から、工事前後の昆虫類相の変化について以下のとおり検証した。

工事前に実施された平成 8 年度及び平成 10 年度の調査で 13 目 140 科 499 種の昆虫類が確認されている。工事完了後の調査では 13 目 120 科 394 種が確認され、確認種数はやや少なかった。

重要種については、工事前には 4 目 5 科 5 種、工事完了後は 5 目 10 科 10 種が確認されており、増加していた。環境影響予測評価書で注目すべき種とされている種のうち、ヤマトアオドウガネ、ヘイケボタル及びオオスズメバチは工事完了後も確認された。チョウトンボ及びコキマダラセセリは確認されなかったが、チョウトンボは止水域を好み、湿地環境として整備した親水公園において、今後確認される可能性はあると考えられる。コキマダラセセリはススキやその他のイネ科の植物を食草としており、回復緑地等において、今後確認される可能性はあると考えられる。

工事前は、オオアオイトトンボやオオカワトンボ、ミルンヤンマ、コシアキトンボ等のトンボ類、シマアメンボ等のアメンボ類、マルチビゲンゴロウやチビゲンゴロウ、マメゲンゴロウ、ホソセスジゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ等のゲンゴロウ類、ナガレトビケラ科の一種やシマトビケラ科の一種等のトビケラ類といった水辺に生息する種が相対的に多く出現しているのが特徴的である。工事完了後は、水辺性の種は少なかったものの、親水公園の池とその周辺では水辺に生息するアオモンイトトンボやギンヤンマ、シオカラトンボ等のトンボ類、アメンボやシマアメンボ等のアメンボ類が確認された。樹林に生息する種の中でも常緑広葉樹林に生息する種から落葉広葉樹林に生息する種に加えて、草地に生息する種、水辺に生息する種まで比較的多様な種が確認されており、工事完了後でも確認種数は約 8 割に維持されている。また、移設したホタル類も親水公園内で多数継続して確認されたほか、工事前の調査では確認されなかったミドリシジミ類も確認された。

以上より、工事完了後においては保存緑地、回復森林及び回復緑地の樹林や親水公園の湿地を中心として昆虫類の生息環境が保全・創出されていることから、環境保全対策は適切であったと考えられる。

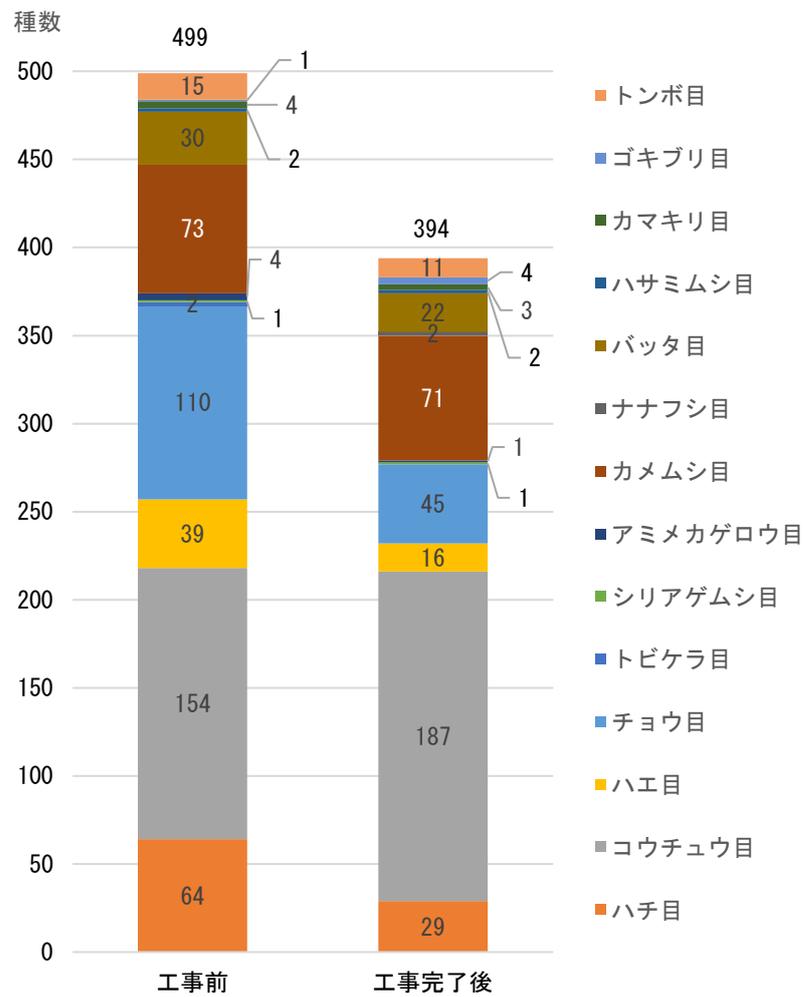


図 4.2.3 工事前後の昆虫類相の変化

表 4.2.9 工事前後の昆虫類相の変化 (1/10)

No.	目名	科名	種名	工事前	工事後	選定基準					
						①	②	③	④	⑤	
1	トンボ目	アオイトトンボ科	オオアオイトトンボ	○							
2		イトトンボ科	アジアイトトンボ	○	○						
3			アオモシイトトンボ		○						
4		カワトンボ科	ハグロトンボ		○					要	
5			ニホンカワトンボ	○							
6		ヤンマ科	ギンヤンマ	○	○						
7			コシボソヤンマ		○					要	
8			ミルンヤンマ	○							
9		トンボ科	ショウジョウトンボ		○						
10			シオカラトンボ	○	○						
11			シオヤトンボ	○							
12			オオシオカラトンボ	○	○						
13			ウスバキトンボ	○	○						
14			コシアキトンボ	○							
15			チョウトンボ	○						●	
16			コノシメトンボ	○							
17			ナツアカネ	○	○					要	
18			マユタテアカネ	○							
19			アキアカネ	○	○						
20	ゴキブリ目	チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ	○	○						
21			ウスヒラタゴキブリ本土亜種		○						
22			ヒメクロゴキブリ		○						
23		マダラゴキブリ科	サツマゴキブリ		○						
24	カマキリ目	カマキリ科	ハラビロカマキリ	○	○						
25			コカマキリ	○	○						
26			チョウセンカマキリ	○							
27			オオカマキリ	○	○						
28	ハサミムシ目	マルムネハサミムシ科	ヒゲジロハサミムシ		○						
29			ハマバハサミムシ	○	○						
-			ハサミムシ目の一種	○							
30	バッタ目	コロギス科	ハネナシコロギス	○							
31		カマドウマ科	マダラカマドウマ	○	○						
32		ツユムシ科	セスジツユムシ	○	○						
33			サトクダマキモドキ	○							
34			ツユムシ	○							
35			ヒメクダマキモドキ		○						
36		キリギリス科	コバネササキリ	○							
37			ホシササキリ		○						
38			ヒメギス		○						
39			クビキリギス	○	○						
40			ヒガシキリギリス		○						要
41			ハタケノウマオイ	○							
42			キブキリ	○							
43		ケラ科	ケラ	○	○					要	
44		マツムシ科	アオマツムシ		○						
45		コオロギ科	タンボコオロギ	○							
46			クマズムシ	○							
47			エンマコオロギ	○	○						
48			ツツレサセコオロギ		○						
-		コオロギ科の一種	○								
49	カネタタキ科	カネタタキ	○	○							
50	ヒバリモドキ科	ウスグモスズ		○							
51		マダラスズ	○	○							
52		シバズ		○							
53		ヤチスズ	○								
54	バッタ科	ショウリョウバッタ	○	○							
55		ヒナバッタ		○							
56		トノサマバッタ	○	○							
57		ナキイナゴ	○								
58		ヒロバネヒナバッタ	○								
59		イボバッタ	○								
60		イナゴ科	コバネイナゴ	○							
61		ツチイナゴ	○	○							
62	オンブバッタ科	オンブバッタ	○	○							
63	ヒシバッタ科	トゲヒシバッタ	○								
64		エウバラテディクス属の一種	○								
65		ハラヒシバッタ	○	○							
-			ヒシバッタ科の一種	○							
66	ノミバッタ科	ノミバッタ	○	○							
67	ナナフシ目	ナナフシ科	トグナナフシ		○						
68			ナナフシモドキ		○						
69	カメムシ目	ヒシウンカ科	ヤナギカワウンカ		○						
70		ウンカ科	ヒメトビウンカ		○						
71			セジロウンカ		○						
72			コブウンカ		○	○					
-				ウンカ科の一種	○						
73		ハネナガウンカ科	キスジハネビロウンカ	○							
74		アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ	○	○						
75		ハゴロモ科	ベッコウハゴロモ		○						
76		ゲンバイウンカ科	ヒラタゲンバイウンカ	○	○						
77		セミ科	クマゼミ		○						

表 4.2.9 工事前後の昆虫類相の変化 (2/10)

No.	目名	科名	種名	工事前	工事完了後	選定基準					
						①	②	③	④	⑤	
78	カメムシ目	セミ科	アブラゼミ	○	○						
79			ミンミンゼミ	○	○						
80			ツクツクボウシ	○	○						
81			ニイニイゼミ	○	○						
82			ヒグラシ	○	○						
83		アワフキムシ科	シロオビアワフキ	○	○						
84			ハマベアワフキ		○						
85			クロスジアワフキ	○							
86		コガシラアワフキムシ科	コガシラアワフキ	○	○						
87		ヨコバイ科	カスリヨコバイ	○							
88			アオズキンヨコバイ	○							
89			ツマグロオオヨコバイ	○	○						
90			オオヨコバイ	○	○						
91			イシダヒメヨコバイ	○							
92			クロミヤクイチモンジヨコバイ	○							
93			サジヨコバイ		○						
94			ヒトツメヒメヨコバイ		○						
95			ミドリヒロヨコバイ	○							
96			ミミズク	○							
97			コミミズク		○						
98			ムツテンウスバヨコバイ	○							
99			チャイロヨコバイ	○							
100			ツマグロヨコバイ		○						
101			クワキヨコバイ	○	○						
102			フタテンヨコバイ	○							
103			アブラムシ科	クリオオアブラムシ		○					
-		アブラムシ科の一種		○							
104		ヨコバイ亜目の一種		○							
105		ワタフキカイガラムシ科	オオワラジカイガラムシ		○						
106		サシガメ科	アカサシガメ	○	○						
107			オオトビサシガメ	○							
108			クロサシガメ	○							
109			シマサシガメ	○							
-			サシガメ科の一種	○							
110		グンバイムシ科	アワダチソウグンバイ		○						
111			ナシグンバイ		○						
112			ツツジグンバイ		○						
113		ハナカメムシ科	ケシハナカメムシ	○							
114		カスミカメムシ科	デラエコリス属の一種	○							
115			クロヒョウタンカスミカメ	○							
-			ピロフォルス属の一種	○							
116			イネホソミドリカスミカメ		○						
-		メクラカメムシ科	メクラカメムシ科の一種	○							
117		マキバサシガメ科	ハネナガマキバサシガメ	○	○						
118		オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ		○						
119			ヒメホシカメムシ		○						
120		ホシカメムシ科	クロホシカメムシ		○						
121		ホソヘリカメムシ科	ヒメクモヘリカメムシ		○						
122			ホソヘリカメムシ		○						
123		ヘリカメムシ科	ホオズキカメムシ		○						
124			ホソヘリカメムシ	○	○						
125			ヘリカメムシ	○							
126			ヒメトゲヘリカメムシ		○						
127			ホシハラビロヘリカメムシ	○	○						
128			オオツマキヘリカメムシ		○						
129			ツマキヘリカメムシ		○						
130			キバラヘリカメムシ		○	○					
131			ヒメヘリカメムシ科	スカシヒメヘリカメムシ		○					
132				コブチヒメヘリカメムシ	○						
133		イトカメムシ科		イトカメムシ	○						
134		ナガカメムシ科	コバネナガカメムシ		○						
135			ヒメオオメナガカメムシ		○						
136			オオメナガカメムシ	○	○						
137			ヨツボシヒョウタンナガカメムシ	○	○						
138			キベリヒョウタンナガカメムシ	○							
139			オオモンシロナガカメムシ	○	○						
140			チャイロナガカメムシ		○						
141			ヒサゴナガカメムシ	○							
142			ヒメナガカメムシ	○							
143			ヒラタヒョウタンナガカメムシ	○							
144			ヒゲナガカメムシ		○						
145			アカアシホソナガカメムシ	○							
146			クオアシホソナガカメムシ	○							
147			コバネヒョウタンナガカメムシ	○	○						
-				ナガカメムシ科の一種	○						
148		メダカナガカメムシ科	メダカナガカメムシ		○						
149		ツノカメムシ科	エサキモンキツノカメムシ	○	○						
150		ツチカメムシ科	ミツボシツチカメムシ	○							
151			ツチカメムシ	○	○						
152		カメムシ科	ウズラカメムシ		○						
153			シロヘリカメムシ	○							

表 4.2.9 工事前後の昆虫類相の変化 (3/10)

No.	目名	科名	種名	工事前	工事完了後	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
154	カメムシ目	カメムシ科	ウシカメムシ		○					
155			チャイロクチブトカメムシ	○						
156			キマダラカメムシ			○				
157			ナガメ			○				
158			ムラサキシラホシカメムシ	○	○					
159			シラホシカメムシ			○				
160			ツヤアオカメムシ			○				
161			エビイロカメムシ			○				
162			クサギカメムシ	○	○					
163			アオクサカメムシ	○						
164			イチモンジカメムシ	○						
165			チャバネアオカメムシ	○	○					
166			イネクロカメムシ	○						
167			マルカメムシ科	ヒメマルカメムシ	○					
168				マルカメムシ	○	○				
169			キンカメムシ科	オオキンカメムシ	○					
170				チャイロカメムシ	○					
171		アカスジキンカメムシ		○						
172	アメンボ科	アメンボ		○						
173		ヒメアメンボ		○						
174		シマアメンボ	○	○						
175	ナベブタムシ科	ナベブタムシ	○							
176	マルミズムシ科	マルミズムシ	○							
177	アミメカゲロウ目	クサカゲロウ科	クモンクサカゲロウ	○						
178			アミメクサカゲロウ		○					
-			クサカゲロウ科の一種	○						
179			ヒメカゲロウ科	ニセヒメカゲロウ	○					
180	ウスバカゲロウ科	ウスバカゲロウ	○							
181	シリアゲムシ目	シリアゲムシ科	ヤマトシリアゲ	○	○					
182	トビケラ目	シマトビケラ科	シマトビケラ科の一種	○						
183		ナガレトビケラ科	ナガレトビケラ科の一種	○						
184	チョウ目	ハマキガ科	リンゴノコカクモンハマキ	○						
185			チビカクモンハマキ	○						
186			チャハマキ		○					
-			ハマキガ科の一種	○						
187		ホソハマキガ科	ホソハマキガ科の一種	○						
188		イラガ科	ウストビイラガ	○						
189			テングイラガ	○						
190		マダラガ科	リンゴハマキクロバ		○					
191			ウスグロマダラ	○						
192			ホタルガ	○	○					
193		セセリチョウ科	ダイミョウセセリ	○						
194			コキマダラセセリ	○					●	
195			イチモンジセセリ	○	○					
196			キマダラセセリ	○						
197			コチャバネセセリ	○						
198		シジミチョウ科	ムラサキツバメ		○					
199			ムラサキシジミ		○					
200			ルリシジミ	○	○					
201			ウラギンシジミ	○	○					
202			ツバメシジミ	○						
203			ウラナミシジミ	○						
204			ベニシジミ	○	○					
205			ミドリシジミ		○				NT	
206	タテハチョウ科	ヤマトシジミ本土亜種	○	○						
207		アカボシゴマダラ		○						
208		リュウキュウムラサキ		○						
209		ルリタテハ本土亜種	○							
210		クロヒカゲ本土亜種	○							
211		ヒカゲチョウ	○	○						
212		イチモンジチョウ	○							
213		コジャノメ	○							
214		ヒメジャノメ	○	○						
215		サトキマダラヒカゲ	○	○						
216		コムシジ	○							
217		コムシジ本州以南亜種		○						
218		キタテハ		○						
219		ヒメアカタテハ	○	○						
220		アカタテハ	○							
221		ヒメウラナミジャノメ	○	○						
222	アゲハチョウ科	ジャコウアゲハ本土亜種	○							
223		アオスジアゲハ	○	○						
224		カラスアゲハ本土亜種	○	○						
225		モンキアゲハ	○	○						
226		キアゲハ	○	○						
227		ナガサキアゲハ		○						
228		クロアゲハ本土亜種	○	○						
229		アゲハ	○	○						
230	シロチョウ科	ツマキチョウ	○							
231		モンキチョウ	○							
232		キタキチョウ	○	○						

表 4.2.9 工事前後の昆虫類相の変化 (4/10)

No.	目名	科名	種名	工事前	工事 完了後	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
233	チョウ目	シロチョウ科	スジグロシロチョウ	○						
234			モンシロチョウ	○	○					
235		ツトガ科	シロモンノメイガ	○						
236			アカウスグロノメイガ	○	○					
237			ヨシツトガ	○						
238			ニカメイガ	○						
239			モモノゴマダラノメイガ		○					
240			モンキクロノメイガ		○					
241			マエキノメイガ	○						
242			マエアカスカシノメイガ	○						
243			キムジノメイガ		○					
244			ナカキノメイガ	○						
245		ウスマルモンノメイガ	○							
246		メイガ科	ホモエオソマ属の一種	○						
247			アカマダラメイガ	○	○					
248			フタスジシマメイガ	○						
249			ムラサキシマメイガ	○						
250			ヤマトマダラメイガ	○						
251			トビイロフタスジシマメイガ	○						
252			チビシマメイガ	○						
-				メイガ科の一種	○					
253		シヤクガ科	ナカウスエダシヤク		○					
254			ツマトビキエダシヤク	○						
255	フタテンオエダシヤク		○							
256	ヨツモンマエジロアオシヤク			○						
257	オオハガタナミシヤク			○						
258	オオトビスジエダシヤク		○							
259	シロジマエダシヤク		○							
260	クロスジアオシヤク		○							
261	ウラバニエダシヤク		○							
262	ナミスジロアオシヤク		○							
263	スカシエダシヤク		○							
264	ウスクモエダシヤク		○							
265	フトスジツバメエダシヤク		○							
266	キスジシロヒメシヤク		○							
267	ウラナミヒメシヤク		○							
268	ウスベニスジヒメシヤク		○							
-			シヤクガ科の一種	○						
269	カレハガ科		マツカレハ	○						
270	スズメガ科		ブドウスズメ	○						
271			モモスズメ	○						
272			シモフリスズメ		○					
273	シヤチホコガ科		オオエグリシヤチホコ	○						
274	ヒトリガ科		カノコガ	○	○					
275			ヤネホソバ	○						
-				エイレマ属の一種	○					
276			ヨツボシホソバ	○						
277			ベニヘリコケガ	○						
278			キマエホソバ	○						
279			ホシホソバ	○						
280			クロミヤクホソバ	○						
281			ゴマダラキコケガ	○						
282			クシヒゲコケガ	○						
283		ドクガ科		チャドクガ	○	○				
284	ヤガ科		オオマダラウロバ	○						
285			キマエアツバ	○						
286			フジロアツバ	○						
287			カブラヤガ	○						
288			ワモンキシタバ	○						
289			キシタバ	○						
290			シロスジシマコヤガ	○						
291			コウスチャヤガ	○						
292			モンムラサキクチバ	○						
293			アカテックチバ	○						
294			ウスキミスジアツバ	○						
295			ソトウスグロアツバ	○	○					
296			ヒメネジロコヤガ	○						
297			カバフヒメクチバ	○						
298			ウンモンクチバ	○	○					
299			ウスイロキヨトウ	○						
300			フタテンキヨトウ	○						
301			フタオビキヨトウ	○						
302			ヒメエグリバ		○					
303			アシプトクチバ	○						
304			タケアツバ		○					
305			オオアカマエアツバ	○						
306			アカマエアツバ	○						
307			ハグルマトモエ	○						
308			ヒメロブヒゲアツバ	○						
-				ヤガ科の一種	○					

表 4.2.9 工事前後の昆虫類相の変化 (5/10)

No.	目名	科名	種名	工事前	工事完了後	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
309	ハエ目	ヒメガガンボ科	カスリヒメガガンボ	○						
310		ガガンボ科	キリウジガガンボ	○	○					
311			クロキリウジガガンボ	○						
-			ガガンボ科の一種	○						
312		ヌカカ科	クマヌカカ	○						
313			フォルボミア属の一種	○						
314		カ科	ヒトスジシマカ	○	○					
315		ホソカ科	マダラホソカ	○						
316		ケバエ科	ヒメセグロケバエ	○						
317		ミズアブ科	コウカアブ	○	○					
318		アブ科	ヤマトアブ	○						
319		ムシヒキアブ科	アオメアブ	○	○					
320			オオイシアブ	○	○					
321			メスアカオオムシヒキ	○						
322			ナミマカリケムシヒキ	○	○					
323			シオヤアブ	○	○					
324			アシナガバエ科	アシナガキンバエ	○					
325			マダラアシナガバエ	○						
326		ハナアブ科	ヤマトヒゲナガハナアブ	○						
327			ホソヒラタアブ	○	○					
328			キゴシハナアブ	○	○					
329			シマハナアブ	○	○					
330			ナミハナアブ	○	○					
331			アシブトハナアブ	○	○					
332			ヨコモヒラタアブ	○						
333			カオグロオビホソヒラタアブ	○						
334			オオハナアブ	○	○					
335			ミナミヒメヒラタアブ	○						
336			ホソヒメヒラタアブ	○						
-				ハナアブ科の一種	○					
337			ハモグリバエ科	ハモグリバエ科の一種	○					
338			ショウジョウバエ科	オオショウジョウバエ	○					
339		マダラショウジョウバエ		○						
-				ショウジョウバエ科の一種	○					
340		ナガスヤセバエ科	ホシアシナガヤセバエ		○					
341		ヤチバエ科	ヒゲナガヤチバエ	○						
342		ミバエ科	ミツボシハマダラミバエ	○						
-			ミバエ科の一種	○						
343		クロバエ科	キンバエ	○	○					
344		イエバエ科	イエバエ科の一種	○						
345		ニクバエ科	ナミニクバエ	○	○					
346		ヤドリバエ科	セスジナガハリバエ	○						
-				アシナガヤドリバエ亜科の一種	○					
347			ヨコジマオオハリバエ	○						
-				ハエ目の一種	○					
348		コウチュウ目	ホソクビゴミムシ科	アオバネホソクビゴミムシ	○					
349				オオホソクビゴミムシ	○	○				
350			ミイデラゴミムシ	○	○					
351	オサムシ科		キイロチビゴモクムシ	○						
352			アオグロヒラタゴミムシ	○	○					
353			アシミゾヒラタゴミムシ	○						
354			コアオマルガタゴミムシ	○						
355			キベリゴモクムシ	○						
356			キアシヌレチゴミムシ	○						
357			ヨツモンカタキバゴミムシ	○						
358			アトモンミズギワゴミムシ	○						
359			ムナビロツヤミズギワゴミムシ	○						
360			ヒラタアオミズギワゴミムシ	○						
361			チビヒメゴモクムシ	○	○					
362			マイマイカブリ	○						
363			アオオサムシ	○	○					
364			オオアトボシアオゴミムシ	○						
365			ムナビロアトボシアオゴミムシ	○						
366			コガシラアオゴミムシ	○						
367			マダラキノコゴミムシ	○		○				
368			ヒラタマルゴミムシ	○						
369			ルリヒラタゴミムシ	○						
370			コヨツボシアトキリゴミムシ	○		○				
371			セアカヒラタゴミムシ	○	○					
372			アオヘリホソゴミムシ	○						
373			キイロマルコミズギワゴミムシ	○						
374			クビボソゴミムシ	○	○					
375			スジアオゴミムシ	○						
376			ウスアカクロゴモクムシ	○	○					
377			コゴモクムシ	○						
378			フタホシアトキリゴミムシ	○	○					
379			オオゴミムシ	○						
380			チャバネクビナガゴミムシ	○						
381			アオヘリアトキリゴミムシ	○	○					
382			キイロアトキリゴミムシ	○	○					
383				ヤマトクロヒラタゴミムシ	○					

表 4.2.9 工事前後の昆虫類相の変化 (6/10)

No.	目名	科名	種名	工事前	工事完了後	選定基準					
						①	②	③	④	⑤	
384	コウチュウ目	オサムシ科	チビミズギワゴミムシ	○							
385			ホソヒラタゴミムシ	○							
386			トネガワナガゴミムシ	○							
387			トックリナガゴミムシ	○							
388			マルコガシラナガゴミムシ	○							
389			キンナガゴミムシ	○							
390			マルガタナガゴミムシ	○							
-			ブテロステイクス属の一種	○							
391			ホソヒョウタンゴミムシ	○							
392			イツホシマメゴモクムシ			○					
393			シヌクス属の一種	○							
394			クロチビカワゴミムシ	○							
395			ヒメツヤゴモクムシ			○					
396			ルイスオオゴミムシ			○					
397			ハンミョウ科	コニワハンミョウ	○						
398				エリザハンミョウ	○						
399				トウキョウヒメハンミョウ	○	○					
400			ゲンゴロウ科	マメゲンゴロウ	○						
401				ホソセスジゲンゴロウ	○	○					
402				コシマゲンゴロウ	○						
403		チビゲンゴロウ		○							
404		マルチビゲンゴロウ		○							
405		ヒメゲンゴロウ		○							
406		ガムシ科	トゲバゴマフガムシ	○							
407			ケンガムシ属の一種	○							
408			セマルマグソガムシ	○							
409			マゴソガムシ	○							
410		ホソケシガムシ	○								
411		エンマムシ科	ニセヒメナガエンマムシ		○						
412		シデムシ科	オオヒラタシデムシ	○	○						
413			ヨツボシモンシデムシ	○	○						
414			コクロシデムシ	○							
415		ハネカクシ科	ムネビロハネカクシ		○						
416			クロムネスジミギワハネカクシ	○							
417			ツマグロムネスジハネカクシ	○							
418			クロズトガリハネカクシ		○						
419			アカアシクロトガリハネカクシ	○							
420			キバナセミソハネカクシ			○					
421			クロマルズオオハネカクシ			○					
422			ナガサキハネナガヨツメハネカクシ	○							
423	アオバアリガタハネカクシ		○								
424	ホソチャバネコガシラハネカクシ		○								
425	カギアシデオキノコムシ				○						
426	ハスモンヒメキノコハネカクシ				○						
427	ズグロメダカハネカクシ		○								
428	ズクロアカチビハネカクシ		○								
-		ハネカクシ科の一種	○								
429	マルハナノミ科	クロチビマルハナノミ	○								
430		キムネホソチビマルハナノミ			○						
431	センチコガネ科	センチコガネ	○	○							
432	クワガタムシ科	コクワガタ	○	○							
433		ノコギリクワガタ		○							
434		コイチャコガネ	○								
435		ドウガネブイブイ	○								
436		サクラコガネ	○								
437		ヤマトアオドウガネ	○	○					●		
438		セマダラコガネ			○						
439		コアオハナムグリ	○	○							
440		コクロコガネ			○						
441		ヒメトラハナムグリ本土亜種	○								
442		オオコフキコガネ	○								
443		ヒラタハナムグリ			○						
444		ハイイロビロウドコガネ			○						
445		マメコガネ	○	○							
446	シロテンハナムグリ	○	○								
447	カナブン			○							
448	タマムシ科	クワナガタマムシ本土亜種		○							
449		タマムシ			○				要		
450		クズノチビタマムシ	○	○							
451		マメチビタマムシ			○						
452		サンゲチビタマムシ			○						
453		ソーンダースチビタマムシ			○						
454	コメツキムシ科	サビキコリ	○	○							
455		ホソサビキコリ	○								
456		ヒメクロコメツキ			○						
457		アカハラクロコメツキ			○						
458		ナガナカグロヒメコメツキ			○						
459		アカアシハナムグリ			○						
460		キアシミズギワコメツキ			○						
461		クワツヤハダコメツキ			○						
462		オオサビコメツキ			○						

表 4.2.9 工事前後の昆虫類相の変化 (7/10)

No.	目名	科名	種名	工事前	工事後	選定基準					
						①	②	③	④	⑤	
463	コウチュウ目	コメツキムシ科	クロツヤクシコメツキ		○						
464			クシコメツキ	○	○						
-			メラフトウス属の一種	○							
465			クロコハナコメツキ	○							
466			ヒゲコメツキ		○	○					
467			マダラチビコメツキ	○	○						
468		クチブトコメツキ	○								
469		ジョウカイボン科	クロヒメクビボソジョウカイ	○	○						
470			ウスイロクビボソジョウカイ	○							
471			クビボソジョウカイ	○							
472			ヒメジョウカイ	○							
473			ジョウカイボン	○							
474			セボシジョウカイ			○					
475			ニセキベリコバネジョウカイ			○					
476			ホタル科	ヘイケボタル	○	○				NT	●
477			ベニボタル科	クロハナボタル	○	○					
478			カツオブシムシ科	ヒメマルカツオブシムシ	○						
479		カマキリタマゴカツオブシムシ			○						
480		シバンムシ科	ツツガタシバンムシ		○						
481		カッコウムシ科	キオビナガカッコウムシ		○						
482		ジョウカイモドキ科	ヒロオビジョウカイモドキ		○						
483			キアシオビジョウカイモドキ	○							
484			ツマキアオジョウカイモドキ			○					
485		コクヌスト科	ハロルドヒメコクヌスト		○						
486		ツツキノコムシ科	オオツツキノコムシ		○						
487			ミヤマツツキノコムシ		○						
488			キタツツキノコムシ		○						
489			ツヤツツキノコムシ		○						
490			ヒメツヤツツキノコムシ		○						
491			マダラホソツツキノコムシ		○						
492			ムーアシロホシテントウ		○						
493			ヒメアカホシテントウ	○	○						
494			ナナホシテントウ	○	○						
495			トホシテントウ	○	○						
496		ナミテントウ	○	○							
497		オオニジュウヤホシテントウ	○								
498		ニジュウヤホシテントウ	○								
499		キイロテントウ			○						
500		セスジヒメテントウ			○						
501		アトホシヒメテントウ			○						
502		ヨツボシテントウ			○						
503		ヒメカメノコテントウ	○	○							
504		ベニヘリテントウ	○								
505		ツマアカヒメテントウ			○						
506		オニヒメテントウ			○						
507		カグヤヒメテントウ			○						
508	カワムラヒメテントウ			○							
509	コクロヒメテントウ			○							
510	ムネアカオオクロテントウ			○							
511	クロテントウ			○							
512	キシイムシ科	ナガマルキシイ		○							
513	ヒラタムシ科	オオキバチビヒラタムシ		○							
514	オオキノコムシ科	ミヤマオビオオキノコムシ		○							
515		カタボシエグリオオキノコ	○								
516	コメツキモドキ科	キムネヒメコメツキモドキ		○							
517		ヒメムクゲオオキノコ	○								
518		ケシコメツキモドキ			○						
519	ヒメマキムシ科	ヒメマキムシ		○							
520	ケシキシイ科	クロハナケシキシイ		○							
521		ハラグロデオキシイ		○							
522		クロヘリヒラタケシキシイ		○							
523		マメヒラタケシキシイ	○								
524		ナミヒラタケシキシイ		○							
525		コヨツボシケシキシイ	○								
526		マルキマダラケシキシイ		○							
527		ヒメハナムシ科	キイロアシナガヒメハナムシ		○						
528	ホソヒラタムシ科	カドコブホソヒラタムシ		○							
529	アリモドキ科	ホソクビアリモドキ		○							
530		キアシクビボソムシ		○							
531		ヨツボシホソアリモドキ	○								
532	カミキリモドキ科	モモフトカミキリモドキ		○							
533		キアシカミキリモドキ		○							
534	ハナノミダマシ科	クロフナガタハナノミ		○							
535	ゴミムシダマシ科	ホソヒゲナガキマワリ	○								
536		クリイロクチキムシ		○							
537		アカツヤバナクチキムシ		○							
538		フナガタクチキムシ	○	○							
539		オオメキバナハムシダマシ	○	○							
540		ヒゲブトゴミムシダマシ		○							
541		アオツヤキノゴミムシダマシ		○							
542		ツノボソキノゴミムシダマシ		○							

表 4.2.9 工事前後の昆虫類相の変化 (8/10)

No.	目名	科名	種名	工事前	工事完了後	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
543	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ニホンキマワリ本土亜種	○	○					
544			セスジナガキマワリ本土亜種		○					
545			ナミクチキムシ	○	○					
546		カミキリムシ科	ビロウドカミキリ	○	○					
547			ニセビロウドカミキリ		○					
548			キマダラミヤマカミキリ		○					
549			トガリバアカネトラカミキリ		○					
550			ゴマダラカミキリ	○	○					
551			シナノクロフカミキリ		○					
552			コブスジサビカミキリ		○					
553			フタオビミドリトラカミキリ	○	○					
554			ヨツスジトラカミキリ	○						
555			ジュウジクロカミキリ		○					
556			ホソカミキリ		○					
557			ニイジマチビカミキリ		○					
558			ホシベニカミキリ		○					
559			アトモンマルケシカミキリ	○						
560			ゴマダラモモフトカミキリ	○						
561			ヒメヒゲナガカミキリ	○						
562			ハイイロヤハズカミキリ		○					
563			ノコギリカミキリ	○	○					
564		キボシカミキリ	○	○						
565		ナカジロサビカミキリ		○						
566		アトジロサビカミキリ	○	○						
567		ヒトオビアラゲカミキリ		○						
568		イボタサビカミキリ		○						
569		ハムシ科	アカガネサルハムシ		○					
570			キクビアオハムシ		○					
571			スジカミナリハムシの一種	○						
572			サメハダツブノミハムシ		○					
573			ホソルリトビハムシ		○					
574			ウリハムシ	○	○					
575			クロウリハムシ	○	○					
576			アオバナサルハムシ		○					
577			ウスイロサルハムシ	○	○					
578			ヒメカメノコハムシ	○						
579			ヒメドウガネトビハムシ	○	○					
580			ハラグロヒメハムシ	○						
581			キバラヒメハムシ		○					
582			ムシクソハムシ		○					
583			クロルリハムシ	○						
584			ヒトミヒメサルハムシ		○					
585			ミドリトビハムシ	○						
586			チビルリツツハムシ		○					
587			キボシツツハムシ		○					
588			チビカサハラハムシ		○					
589			マダラカサハラハムシ		○					
590			カサハラハムシ		○					
591			イチゴハムシ	○						
592			イタドリハムシ	○	○					
593			コガタルリハムシ	○						
594			フジハムシ	○	○					
595			ヒメトホシハムシ	○						
596			ドウガネサルハムシ	○	○					
597			キバラルリクビボソハムシ	○						
598			ヤマイモハムシ	○	○					
599			ルイスクビナガハムシ		○					
600			キイロクビナガハムシ	○						
601			アカクビナガハムシ	○						
602		キアシノミハムシ		○						
603		ルイスケブカサルハムシ		○						
604		フタスジヒメハムシ		○						
605	ムネアカキバナサルハムシ		○							
606	ツヤキバナサルハムシ		○							
607	マルキバナサルハムシ		○							
608	ダイコンサルハムシ	○								
609	ルリハムシ	○								
610	ヒゲナガゾウムシ科	ヒゲナガゾウムシ科の一種	○							
611	オトシブミ科	ヒメクロオトシブミ		○						
612		カシルリオトシブミ	○	○						
613	ゾウムシ科	アトジロカレキゾウムシ		○						
614		ウスモンカレキゾウムシ		○						
615		トゲアシクチフトゾウムシ	○	○						
616		オビモンハナゾウムシ	○							
617		ケブカヒメカタゾウムシ		○						
618		カナムグラサルゾウムシ	○							
619		マルモンタマゾウムシ		○						
620		クリシギゾウムシ		○						
621		タバグササラゾウムシ		○						
622		ヒメシロコブゾウムシ		○						
623			ウスヒョウタンゾウムシ		○					

表 4.2.9 工事前後の昆虫類相の変化 (9/10)

No.	目名	科名	種名	工事前	工事完了後	選定基準						
						①	②	③	④	⑤		
624	コウチュウ目	ゾウムシ科	オオタコゾウムシ	○								
625			マダラアシゾウムシ		○							
626			ヨフキゾウムシ	○	○							
627			ハコベタコゾウムシ		○							
628			チャバネキクイゾウムシ		○							
629			ヤサイゾウムシ		○							
630			ハスジカツオゾウムシ	○								
631			クワヒメゾウムシ		○							
632			カシワクチプトゾウムシ		○							
633			オジロアシナガゾウムシ	○	○							
634			オオクチプトゾウムシ		○							
635			スグリゾウムシ		○							
636			ヒサゴクチカクシゾウムシ		○							
637			チビコフキゾウムシ		○							
638			オサゾウムシ科	トホシオサゾウムシ	○	○						
639			ハチ目	ヒラタハバチ科	ヒラタハバチ	○						
640				ミフシハバチ科	チュウレンジバチ	○						
641					ルリチュウレンジ		○					
642	ハバチ科	ニホンカブラハバチ		○								
643		チャイロハバチ		○								
644		ルリコシアカハバチ		○								
645		ツマグロアカハバチ		○								
-		ハバチ科の一種		○								
646	コマユバチ科	ハバチキバラコマユバチ		○								
647		オオアメイロコンボウコマユバチ		○								
648	ヒメバチ科	シロスジヒメバチ		○								
649		イヨヒメバチ		○								
650		ハラボソトガリヒメバチ	○									
-		ヒラタアブヤドリヒメバチ亜科の一種	○									
-		ヒメバチ科の一種	○									
651		ホシクロトガリヒメバチ	○									
652		ベッコウアメバチモドキ	○									
653		アゲハヒメバチ	○									
654		アリ科	アシナガアリ	○	○							
655			ヤマトアシナガアリ	○								
656	オオハリアリ		○	○								
657	クロオオアリ		○	○								
658	ミカドオオアリ			○								
659	ムネアカオオアリ		○									
660	ウメマツオオアリ			○								
661	ヤマヨツボシオオアリ		○									
662	ハリプトシリアゲアリ			○								
663	キイロシリアゲアリ		○	○								
664	テラニシシリアゲアリ		○	○								
665	シベリアカタアリ			○								
666	クロヤマアリ		○	○								
667	トビイロケアリ		○	○								
668	アメイロケアリ		○									
669	ヒメアリ			○								
670	イエヒメアリ		○									
671	アメイロアリ		○	○								
672	アズマオオズアリ		○									
673	アミメアリ		○	○								
674	ムネボソアリ		○	○								
675	トビイロシワアリ			○								
676	ウメマツアリ		○	○								
677	スズメバチ科		ミカドドロバチ本土亜種	○								
678			スズバチ	○								
679			フタモンアシナガバチ	○								
680			ムモンホソアシナガバチ	○								
681			フタモンアシナガバチ本土亜種		○							
682		ヤマトアシナガバチ	○									
683		セグロアシナガバチ本土亜種	○	○								
684		キアシナガバチ	○									
685		コアシナガバチ	○									
686		コガタスズメバチ	○	○								
687		ヒメスズメバチ	○									
688		オオスズメバチ	○	○						●		
689		キイロスズメバチ	○	○								
690		クモバチ科	オオモンクモバチ	○								
691			ベッコウクモバチ	○								
692	フタモンクモバチ		○									
693	アリバチ科	ルイスヒトホシアリバチ		○								
694	ツチバチ科	キンケハラナガツチバチ	○									
695		シロオビハラナガツチバチ	○									
696		キオビツチバチ		○								
697	ギンチバチ科	ヤマトコトガタバチ	○									
698	アナバチ科	サトジガバチ	○									
699	ヒメハナバチ科	シロヤオイヒメハナバチ	○									
700	ミツバチ科	ニホンミツバチ	○									
701		セイヨウミツバチ	○	○								

表 4.2.9 工事前後の昆虫類相の変化 (10/10)

No.	目名	科名	種名	工事前	工事完了後	選定基準				
						①	②	③	④	⑤
702	ハチ目	ミツバチ科	コマルハナバチ本土亜種	○	○					
703			トラマルハナバチ本土亜種	○						
704			ニッポンヒゲナガハナバチ	○						
705			シロスジヒゲナガハナバチ		○					
706			キムネクマバチ	○	○					
707		コハナバチ科	ズマルコハナバチ	○						
708			ハラナガツヤコハナバチ	○						
709			サビイロカタコハナバチ	○						
710		ハキリバチ科	ハキリバチ科の一種	○						
合計 14目 160科 710種				499種	394種	0種	0種	0種	8種	5種

注1) 科名・種名・学名・配列は原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト「令和6年度生物リスト」』（国土交通省河川環境データベース、令和6年11月）に従った。

注2) 重要種選定基準の評価区分は以下のとおりである。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年、法律214号）における天然記念物及び特別天然記念物
特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成3年、法律75号）における国内希少野生動植物及び国際希少野生動植物
国内：国内希少野生動植物種 特定：特定国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
- ③ 「環境省レッドリスト2020の公表について」（環境省、令和2年3月）の掲載種
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧
DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館、平成18年7月）の掲載種
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧I類 CR：絶滅危惧IA類 EN：絶滅危惧IB類 VU：絶滅危惧II類
NT：準絶滅危惧 DD：情報不足、要：要注意、減：減少種、希：希少種、注：注目種、不：不明種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑤ 「佐島の丘開発事業環境影響予測評価書」（京浜急行電鉄株式会社、平成12年12月）において注目すべき種とされた種
チョウトンボ、ヤマトアオドウガネ、ヘイケボタル、オオスズメバチ、コキマダラセセリ

(5) 土壌動物

工事前後の土壌動物相の変化は図 4.2.4 に示すとおりである。

工事完了後の調査結果と平成 10 年度に実施された工事前の調査結果から、工事前後の土壌動物相の変化について以下のとおり検証した。

工事前に実施された平成 10 年度の調査で 3 門 9 綱 55 種の土壌動物が確認されている。工事完了後の調査では 3 門 8 綱 69 種が確認されており、確認種数は増加していた。

重要種については、工事前と工事完了後のいずれも確認されていない。

工事完了後に確認種数が増加していることから、工事完了後にも土壌動物相が比較的多様な状態で維持されているものと考えられる。

以上より、工事完了後においては保存緑地、回復森林及び回復緑地の樹林や親水公園の湿地を中心として土壌動物の生息環境が保全・創出されていることから、環境保全対策は適切であったと考えられる。

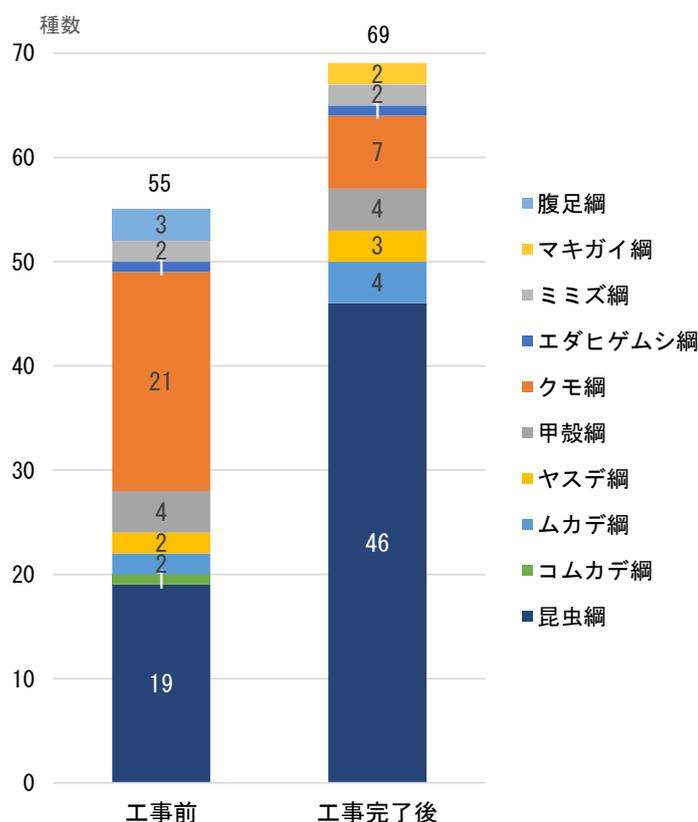


図 4.2.4 工事前後の土壌動物相の変化

3) 水生生物

(1) 底生生物（ベントス）

工事前後の底生生物相の変化は図 4.2.5 及び表 4.2.10 に示すとおりである。

工事完了後の調査結果と平成 8 年度に実施された工事前の調査結果から、工事前後の底生生物相の変化について以下のとおり検証した。

工事前に実施された平成 8 年度の調査で 5 綱 15 目 24 科 28 種類の水生生物が確認されている。工事完了後の調査では 6 綱 11 目 18 科 29 種が確認され、概ね同程度の確認種数であった。

重要種については、工事前は確認されなかったが、工事完了後はヘイケボタルが確認された。なお、環境影響予測評価書で注目すべき種とされている種はいない。

工事前後で共通する確認種はミズミミズ科、カワニナ、ミズムシ、アメリカザリガニ及びユスリカ科の 5 種のみであったものの、確認類数は概ね同程度であった。

事業の実施にあたっては、丸山地区の湿地表土を移植し、地下水等を集水することによって湿地環境を創出することとしている。湿地環境を創出した親水公園の自然環境創出エリアでは、ヘイケボタルの餌資源として重要なカワニナが工事完了後も継続して確認されており、ヘイケボタルを指標昆虫とした湿地特有の食物連鎖が工事完了後も成立している。

以上より、工事完了後においては親水公園の湿地を中心として底生生物の生息環境が保全・創出されていることから、環境保全対策は適切であったと考えられる。

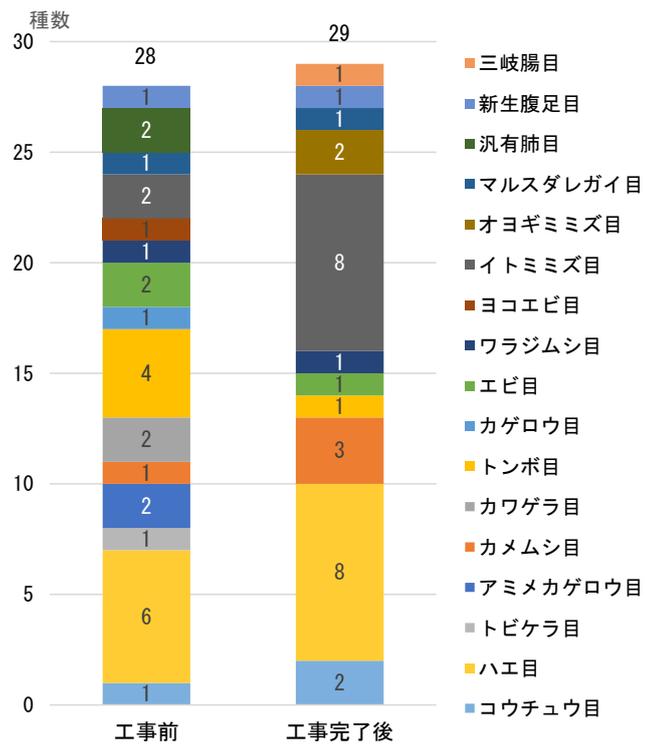


図 4.2.5 工事前後の底生生物相の変化

表 4.2.10 工事前後の底生動物相の変化

No.	網名	目名	科名	種名	工事前	工事完了後	選定基準				
							①	②	③	④	⑤
1	有棒状態	三岐腸	サンカクアタマウズムシ	アメリカツノウズムシ		○					
2	腹足	新生腹足	カワニナ	カワニナ	○	○					
3		汎有肺	モノアラガイ	モノアラガイ	○						
4			サカマキガイ	サカマキガイ	○						
5	二枚貝	マルスダレガイ	ドブシジミ	ドブシジミ	○						
6				マメシジミ属		○					
7	ミミズ	オヨギミミズ	オヨギミミズ	オヨギミミズ属		○					
-				オヨギミミズ科		○					
8		イトミミズ	ミズミミズ	エラオイミズミミズ		○					
9				エラミミズ	○						
10				ウチワミミズ属		○					
11				モトムラユリミミズ		○					
12				ユリミミズ		○					
-				ミズミミズ亜科		○					
-				ナガレイトミミズ亜科		○					
-				イトミミズ亜科		○					
-				ミズミミズ科	○	○					
13	軟甲	ヨコエビ	ヨコエビ	ニッポンヨコエビ	○						
14		ワラジムシ	ミズムシ	ミズムシ	○	○					
15		エビ	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	○	○					
16			サワガニ	サワガニ	○						
17	昆虫	カゲロウ	ヒメフタオカゲロウ	マエグロヒメフタオカゲロウ	○						
18		トンボ	ヤンマ	ミルンヤンマ	○						
19			サナエトンボ	ダビドサナエ	○						
20			オニヤンマ	オニヤンマ	○						
21			トンボ	オオシオカラトンボ		○					
22				コシアキトンボ	○						
23		カワゲラ	オナシカワゲラ	フサオナシカワゲラ属	○						
24				オナシカワゲラ属	○						
25		カメムシ	アメンボ	ヤスマツアメンボ		○					
26				シマアメンボ	○						
27			カタビロアメンボ	ケシカタビロアメンボ		○					
28			マツモムシ	コマツモムシ		○					
29		ヘビトンボ	ヘビトンボ	クロスジヘビトンボ	○						
30				ヘビトンボ	○						
31		トビケラ	エグリトビケラ	ホタルトビケラ	○						
32		ハエ	ノミバエ	ノミバエ科		○					
33			ガガンボ	ガガンボ亜科	○						
34				クロヒメガガンボ亜科の一種	○						
35			コシボソガガンボ	コシボソガガンボ属		○					
36			ヌカカ	ヌカカ科	○						
37			ケヨソイカ	ケヨソイカ科		○					
38			ユスリカ	ユスリカ属		○					
39				モンヌマユスリカ属		○					
40				ピロウドエリユスリカ属		○					
-				ユスリカ科	○						
41			ホソカ	ニッポンホソカ		○					
42			ブユ	ブユ科	○						
43			ナガレアブ	コモンナガレアブ	○						
-				ハエ目		○					
44		コウチュウ	ゲンゴロウ	ヒメゲンゴロウ亜科	○						
45			ガムシ	ヒラタガムシ属		○					
46			ホタル	ハイケボタル		○					NT
合計 6網 17目 34科 46種					28種	29種	0種	0種	0種	1種	0種

注) 重要種選定基準及び評価区分は以下のとおりである。

- ① 「文化財保護法」(昭和 25 年、法律 214 号)における天然記念物及び特別天然記念物
特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 3 年、法律 75 号)における国内希少野生動植物及び国際希少野生動植物
国内：国内希少野生動植物種 特定：特定国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
- ③ 「環境省レッドリスト 2020 の公表について」(環境省、令和 2 年 3 月)の掲載種
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧
DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館、平成 18 年 7 月)の掲載種
EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類
NT：準絶滅危惧 DD：情報不足、要：要注意、減：減少種、希：希少種、注：注目種、不：不明種、
LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑤ 「佐島の丘開発事業環境影響予測評価書」(京浜急行電鉄株式会社、平成 12 年 12 月)において注目すべき種とされた種

第3章 景観

景観の評価目標は、対象事業の実施により、主要な展望地点からの景観に著しい影響を及ぼさないこととしている。

対象事業の実施により、実施区域の地盤高が一部変化したが、外周部には保存緑地として現況の緑地を保存し、のり面は回復森林として森林を復元させたため、各展望地点からの景観は以下ようになった。

1) 大楠山展望所

大楠山展望所及び武山不動からは、実施区域の一部が遠景として望まれ、保存緑地、回復森林及び敷地内緑化等により、周囲の緑及び背後の海の景観と一体になった状態で望まれると予測されており、対象事業の実施による地形の改変が行われた工事完了後においても、緑化等の保全対策等により周辺地域の景観に対して調和がとれていたことから、環境保全対策は適切であったと考えられる。

2) 武山不動

大楠山展望所及び武山不動からは、実施区域の一部が遠景として望まれ、保存緑地、回復森林及び敷地内緑化等により、周囲の緑及び背後の海の景観と一体になった状態で望まれると予測されており、対象事業の実施による地形の改変が行われた工事完了後においても、緑化等の保全対策等により周辺地域の景観に対して調和がとれていたことから、環境保全対策は適切であったと考えられる。

3) 富浦公園

富浦公園からは、小田和湾をはさんで実施区域の一部及びのり面が望まれたが、のり面は回復森林により周辺の緑と一体となり、大楠山から延びる緑の稜線の中に溶け込んでおり、三浦半島の代表的な景観である海、稜線の緑、漁港及び集落等の景観構成の要因に与える影響は少ないと予測されており、対象事業の実施による地形の改変が行われた工事完了後においても、緑化等の保全対策等により周辺地域の景観に対して調和がとれていたことから、環境保全対策は適切であったと考えられる。

4) 長坂公園付近

長坂公園付近からは、住宅地の背後に実施区域東側ののり面及び建築物の一部が望まれるが、のり面は回復森林として森林を復元させるため、周辺の自然景観及び住宅地の景観と溶け込んで望まれると予測されていたが、眺望点が現在は一般企業の私有地となっており、立ち入り可能な範囲からは事業実施区域は展望されなかった。

以上より、対象事業の実施による地形の改変が行われた工事完了後においても、緑化等の保全対策等により周辺地域の景観に対して調和がとれていたことから、環境保全対策は適切であったと考えられる。

5) 長坂3丁目、荻野、太田和2丁目付近の住宅地

長坂3丁目、荻野、太田和2丁目付近の住宅地からは、実施区域の東側ののり面がわずかに望まれる程度で影響は少ないと予測されており、対象事業の実施による地形の改変が行われた工事完了後においても、緑化等の保全対策等により周辺地域の景観に対して調和がとれていたことから、環境保全対策は適切であったと考えられる。

参考資料 事業の概要

1. 対象事業の目的	185
2. 計画の内容	185
3. 実施方法	191
4. 事後調査の実施状況	195

1. 対象事業の目的

京浜急行電鉄株式会社は、総合都市生活企業として、交通事業をはじめ沿線を中心とした宅地開発を手掛け、快適な住環境、各時代の住宅施策に応じた住宅や宅地の安定的な供給に努めて来たが、今日の社会動向として高齢化社会の到来、余暇の拡大、価値観の変化・多様化、高度情報化社会の進展等により、人々のライフスタイルには大きな変化が生まれ、心身の健康や、健やかにすごせる環境づくりへの関心が高まっている。

これらの背景を踏まえ、佐島地区の丘陵部を中心に、周辺の緑地帯の自然景観と調和した土地利用により、リゾート的な環境を生かした健康・文化・交流の拠点と 21 世紀の高齢化社会における健康志向の住宅地を整備し、様々なニーズに応えながら今後の販売用地の安定的な確保を目的とした。

2. 計画の内容

1) 土地利用計画

実施区域の土地利用に際しては、景観の地域特性、実施区域等の生態系の潜在性等に考慮して周辺の自然環境と調和するように、ゾーニングを行った。中央部には健康文化交流センター用地を整備する交流ゾーン、その東西両側に居住ゾーンを配置し、外周部には緑地ゾーンを配置した。実施区域の土地利用計画は表 2-1 及び図 2-1 に示すとおりである。

表 2-1 土地利用面積

	区 分	名 称	面積(ha)	構成比(%)	
実 施 区 域	施設用地	健康文化交流センター用地	4.8	11.5	
		住宅用地（戸建住宅）	13.3	32.0	
		小 計	18.1	43.5	
	公共公益用地	道路	5.9	14.2	
		公園（健康増進施設を含む）	2.8	6.7	
		緑地	13.7	32.9	
		学校用地	0.6	1.4	
		小 計	23.0	55.3	
	合 計			41.1	98.8
	取付進入道路用地			0.5	1.2
総 計			41.6	100.0	

※p. 11 の交流ゾーン内緑化は健康文化交流センター用地、居住ゾーン内緑化は住宅用地（戸建住宅）の区域のことを示す。

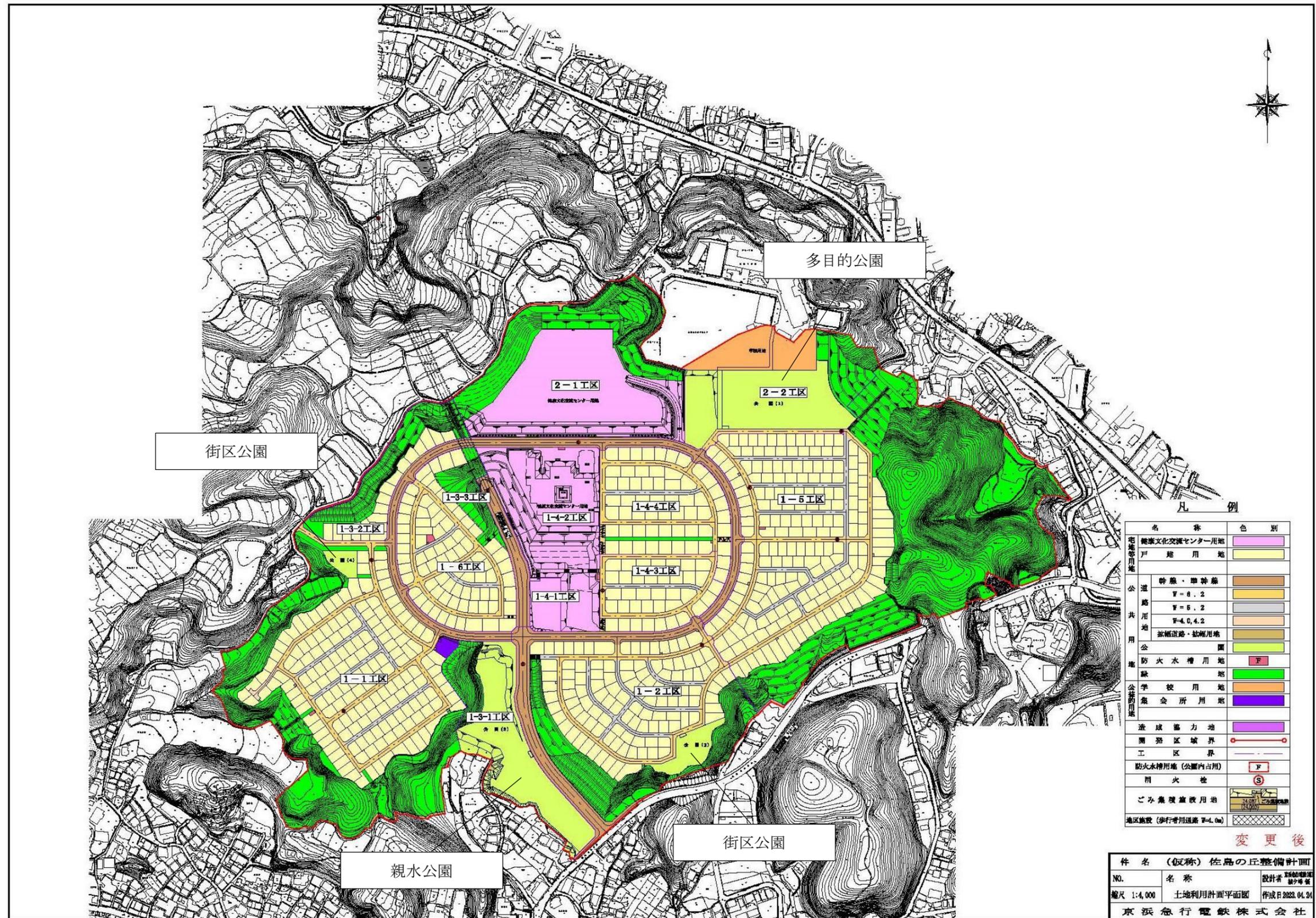


図 2-1 土地利用計画平面図

2) 道路計画

道路整備計画は表 2-2 に示すとおりである。

表 2-2 道路整備計画

項 目	内 容
幹線道路・取付進入道路 (幅員 16m)	実施区域を南北に縦断する幹線道路を整備し、北側は取付進入道路を介して都市計画道路坂本芦名線に、南側は県道佐島港線(県道 213 号)に接続する。
準幹線道路(幅員 12m)	幹線道路と連絡する環状の準幹線道路を設け、地区内の集散道路とする。
区画道路(幅員 6m)	居住ゾーンの街区形成を行う区画道路は、居住者の利便性を考慮し、適切な配置とする。

3) 公園・緑地計画

公園・緑地計画にあたっては、可能な限り現存植生の維持に配慮した上で、多様な自然環境を保全、創出するものとし、自然度の比較的高い樹林地は、極力保存し、造成により出現するのり面等の裸地には、潜在自然植生を考慮した植栽を施した。

新たに整備する公園は、周囲の自然環境と将来的な利用形態を考慮し、弾力性のある公園づくりを行った。

さらに、敷地内緑地や街路樹は、実施区域内全体の緑のネットワークを考慮し、効果的に配置した。

以上により、実施区域内全体で緑被率 55%以上を確保し、周辺地域の緑地環境と連担する大きな緑のネットワークを形成することを公園・緑地計画の目標とした。

4) 供給処理計画

供給処理計画は、表 2-3 に示すとおりである。

表 2-3 供給処理計画

供給処理計画	供給及び処理を行う機関等
上水道計画	横須賀市水道局より供給
電気供給計画	東京電力(株)より供給
雨水排水計画	流域の変更はせず、実施区域周辺の既存の排水区へ放流する
汚水排水	公共下水道に接続する
廃棄物処理計画	住宅からの廃棄物は、横須賀市のごみ収集車により排出 業務用施設からの廃棄物は、横須賀市の指導のもとリサイクル及び処理を行う

3. 実施方法

対象事業の建設工事の概要は、表 3-1 に示すとおりであり、工事の実施にあたっては、工事中に予想される、濁水、粉じん、騒音・振動の発生等の諸問題について十分に配慮した施工計画とした。

表 3-1 工事の概要

工 種	内 容
仮設防災工事	・雨水排水工事－土堰堤、幹線暗渠、仮設沈砂池・調整池 ・土砂流出防止工事－仮設沈砂池
地盤改良工事	・圧密促進区域 10,200m ² 、深層混合区域 5,700m ²
土工事	・土工量 179 万 m ³
排水工事	雨水・汚水排水管 工事管径 φ200～1,350mm、Φ1,400mm 延長=14,474m
擁壁工事	31,968 m ² 鉄筋コンクリート擁壁 22,768 m ² 石積擁壁 9,200 m ²
道路工事	幹線道路 幅員=16.0m 延長 = 575m (うちトンネル部) 幅員=13.0m (延長 = 118m) 準幹線道路 幅員=12.0m 延長 =1,116m 区画道路 幅員= 6.0m 延長 =3,950m 幅員= 5.0m 延長 =1,989m 幅員= 4.0m 延長 = 43m 歩行者専用道路 幅員= 4.0m
供給施設工事	・上水道工事 ・電話線工事 ・電線工事
公園工事	親水公園・多目的公園・街区公園
取付進入道路工事	延長=308m 幅員=16m (一部トンネル区間 幅員=13m)

工程計画は、表 3-2 に示すとおりである。表 3-2 には主要な建設機械の種類及び稼働時期も示した。令和 5 年は工期の 23 年次、令和 6 年は 24 年次にあたる。なお、令和 6 年 4 月 8 日付 (23 年 3 ヶ月) で事業を完了している。

4. 事後調査の実施状況

これまでに実施した事後調査の状況は、表 4-1 に示すとおりである。

表 4-1 事後調査の実施状況

項目	細目、内容	調査時期等	調査内容	実施年度
水質汚濁	外観	造成工事中の毎年 降雨時	SS 濃度の測定 (50～100mm 程度以上の降雨時に実施)	平成 14 年度～22 年度 令和 4、5 年度
		工事中の毎年 降雨時	SS 濃度の参考測定 (30mm 程度の通常降雨時に実施)	平成 23 年度～令和 3 年度
騒音	騒音	工事最盛期 2 回	建設作業騒音の測定	平成 14、15 年度
水象	地下水	トンネル工事 期間中毎月 1 回	既設井戸の水位測定	平成 16 年度
植物・動物・生態系	植 物 (注目すべき植物種、植物群落)	移植適季前 移植後	生育状況調査	平成 13 年度
			活着状況調査	平成 13 年度～令和 5 年度
	ヘイケボタルの 保全	工事中	生息状況の確認	平成 13 年度～令和 5 年度
			改変谷戸部における 捕獲	平成 13、14 年度
			人工飼育	平成 13 年度～23 年度
			丸山地区南東部の谷戸への放流	平成 18 年度
	湿地環境の創出	工事中	整備した湿地への放流	平成 20 年度～24 年度
			丸山地区北東部の谷戸の植生、昆虫の生息状況、移植表土量の確認	平成 14 年度
	植 物	工事完了時及び 供用開始後 5 年 目	植生・植物相・植栽の 生育状況	—
	動 物		哺乳類、鳥類、昆虫 類、両生類・爬虫類、 土壌動物	—
水生生物	ベントス		—	
景 観		工事完了後	写真撮影による	—